

資料 5

大分県のがん登録（2020）



# 大分県がん登録報告（罹患年2020年）

## 調査の概要

集計期間：罹患年月日が2020年1月1日から12月31日の1年間

確定日：2024年3月3日

診断日の決め方

- ① 届出による登録例は、初めてがんと診断された年月日をもって罹患年月日とする。
- ② 届出がなく死亡情報によってがん罹患が判明した例は、遡り調査対象となり、遡り調査によって回答が得られたものは、その届出の診断日を採用する。それ以外のものは、死亡年月日をもって罹患年月日とする。

集計の対象

- ① ICD-3分類において悪性（性状コード3）または、上皮内がん（性状コード2）に分類された腫瘍
- ② 骨髄または脳、脊髄、脳神経、その他の中枢神経系に発生した腫瘍
- ③ 卵巣腫瘍（境界悪性漿液性乳頭状のう胞腫瘍・境界悪性漿液性のう胞腺腫・境界悪性漿液性表在性乳頭腫瘍・境界悪性乳頭状のう胞腺腫・境界悪性粘液性乳頭状のう胞腺腫・境界悪性粘液性のう胞腫瘍・境界悪性明細胞のう胞腫瘍）
- ④ 消化管間質腫瘍
- ⑤ DCO症例については、死亡票の原死因のみ

集計方法：都道府県がんデータベースシステムより出力

## 精度指標

DCI（死亡情報のみの症例および遡り調査でがんが確認された症例）：4.1%（全国値2.9%）

DCO（死亡票のみの症例）：3.0%（全国値1.9%）

MV（病理学的裏付けのある症例）：85.2%（全国値86.5%）

MI比（死亡数と罹患数の比）：0.40（全国値0.40）

届出票件数（2020年症例確定：2024年3月時点）

拠点病院（6）：6,111件

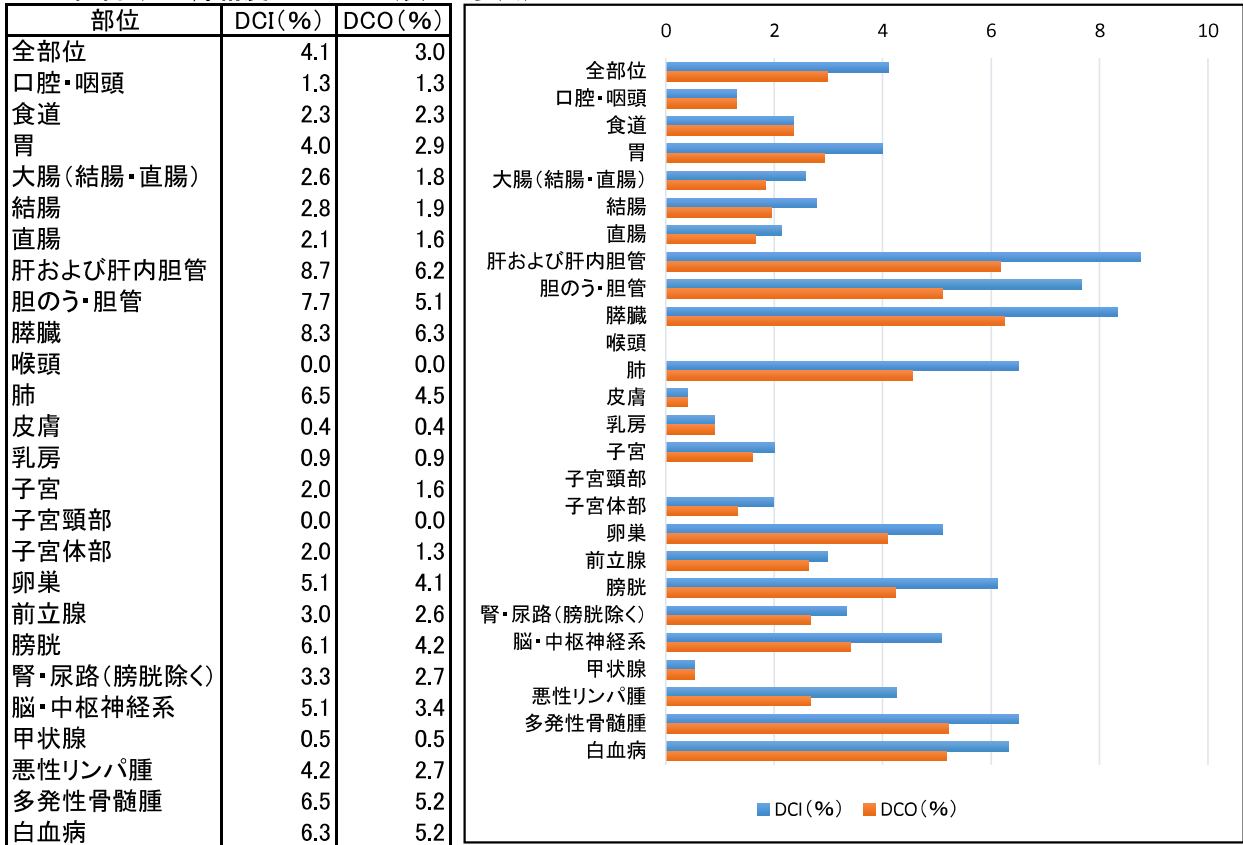
協力病院（3）：1,858件

その他の病院：4,879件

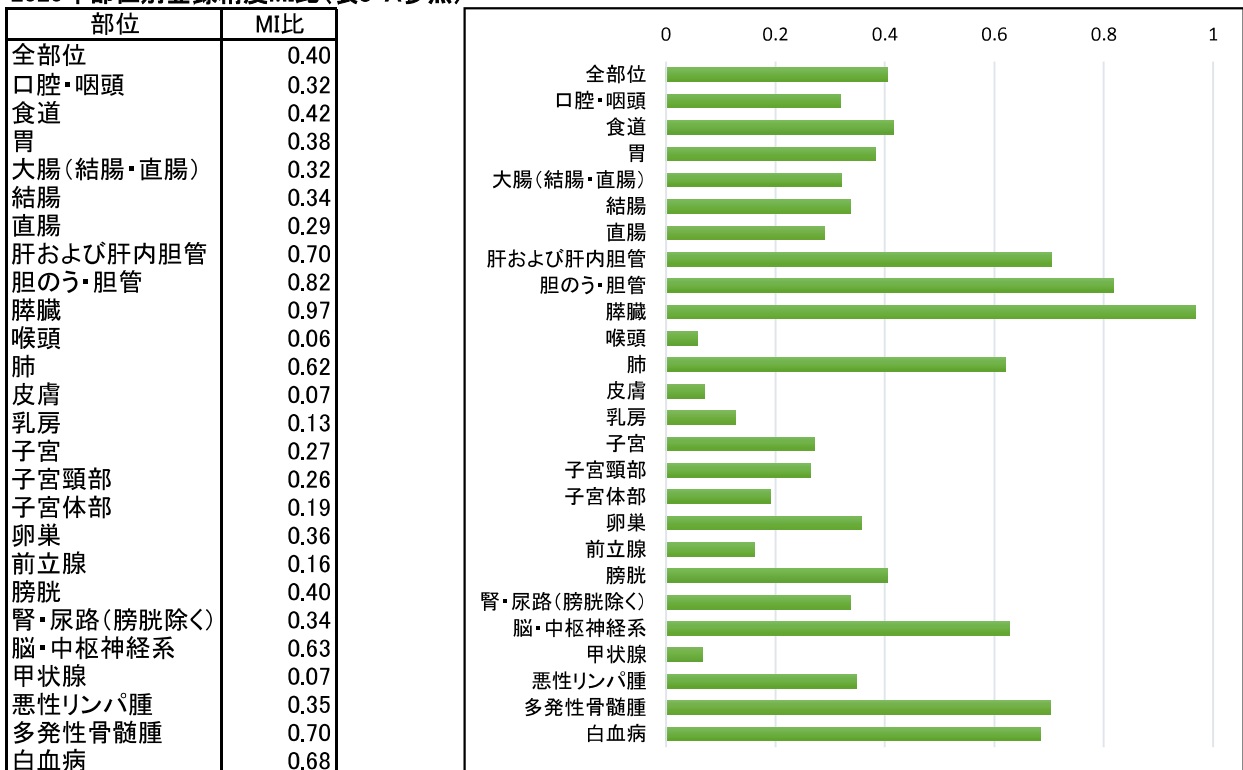
診療所：562件

総数：13,410件

2020年部位別登録精度DCI・DCO(表8-A参照)

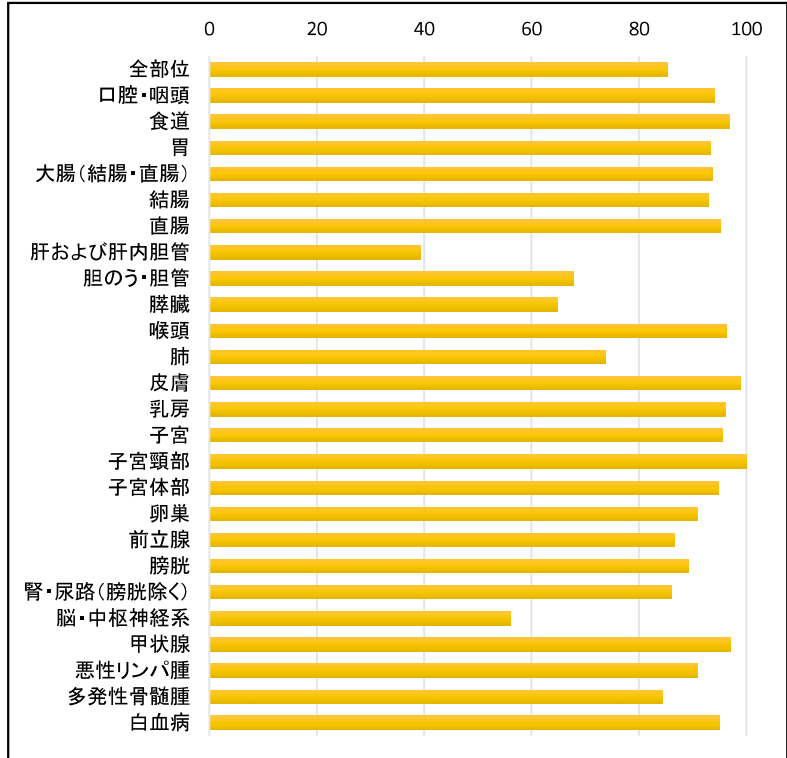


2020年部位別登録精度MI比(表8-A参照)



2020年部位別登録精度MV(表8-A参照)

部位	MV(%)
全部位	85.2
口腔・咽頭	94.0
食道	96.7
胃	93.3
大腸(結腸・直腸)	93.6
結腸	92.9
直腸	95.1
肝および肝内胆管	39.3
胆のう・胆管	67.7
膵臓	64.8
喉頭	96.2
肺	73.6
皮膚	98.8
乳房	96.1
子宮	95.6
子宮頸部	100.0
子宮体部	94.7
卵巣	90.8
前立腺	86.6
膀胱	89.2
腎・尿路(膀胱除く)	86.0
脳・中枢神経系	55.9
甲状腺	96.9
悪性リンパ腫	90.7
多発性骨髄腫	84.4
白血病	94.8

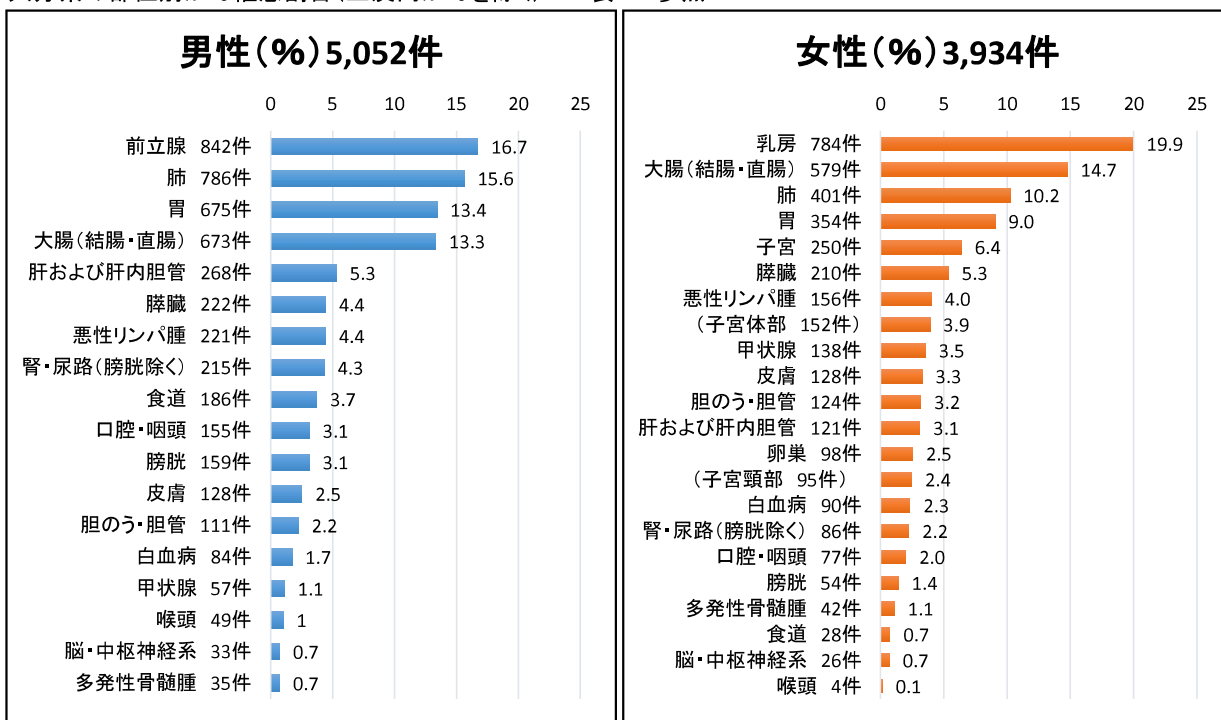


## 大分県のがん罹患の概要

### (1) 全体の概要

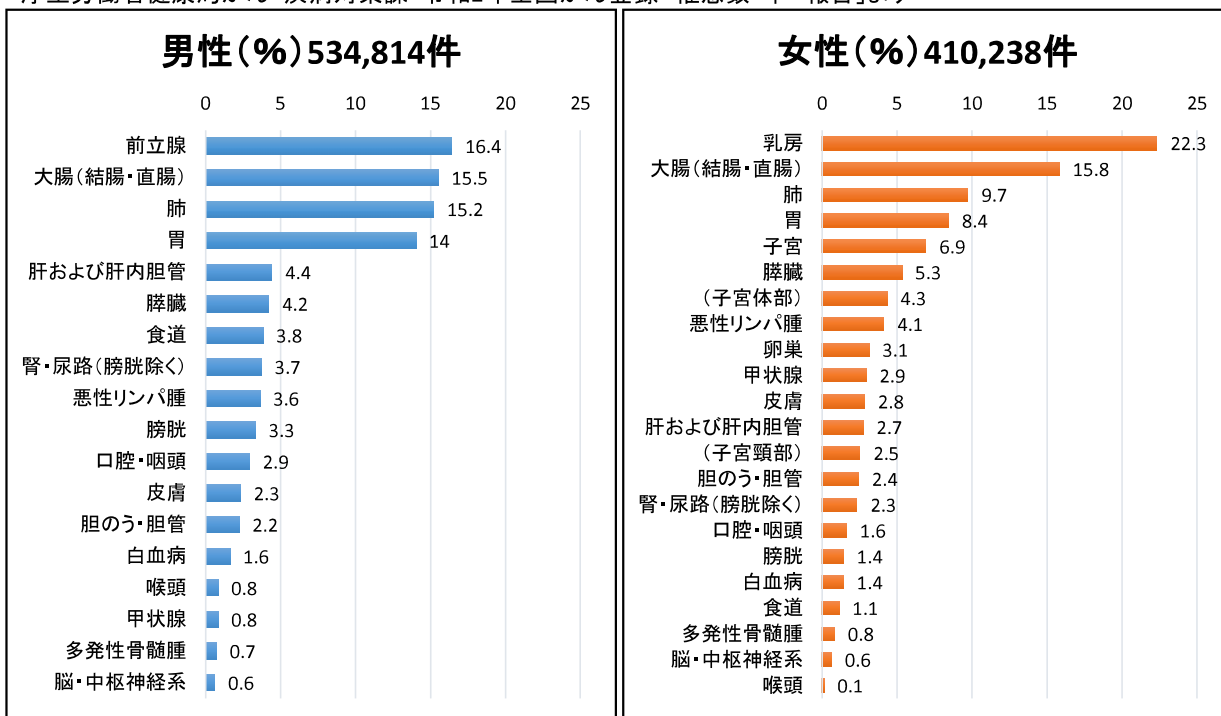
2020年大分県において、上皮内がんを除く全部位のがん罹患数は男性5,052件、女性3,934件、総数8,986件であった。男性において、罹患が最も多い部位は前立腺(16.7%)で、肺(15.6%)、胃(13.4%)、大腸(結腸・直腸)(13.3%)、肝および肝内胆管(5.3%)と続く。女性において罹患が最も多い部位は乳房(19.9%)で、大腸(結腸・直腸)(14.7%)、肺(10.2%)、胃(9.0%)、子宮(6.4%)と続く。全国では、男性において罹患が最も多い部位は前立腺(16.4%)で、大腸(結腸・直腸)(15.5%)、肺(15.2%)、胃(14.0%)、肝および肝内胆管(4.4%)と続く。女性において最も多い部位は乳房(22.3%)で、大腸(結腸・直腸)(15.8%)、肺(9.7%)、胃(8.4%)、子宮(6.9%)と続く。

大分県の部位別がん罹患割合(上皮内がんを除く) \*表1-A参照



全国の部位別がん罹患割合(上皮内がんを除く)

\*厚生労働省健康局がん・疾病対策課「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」より

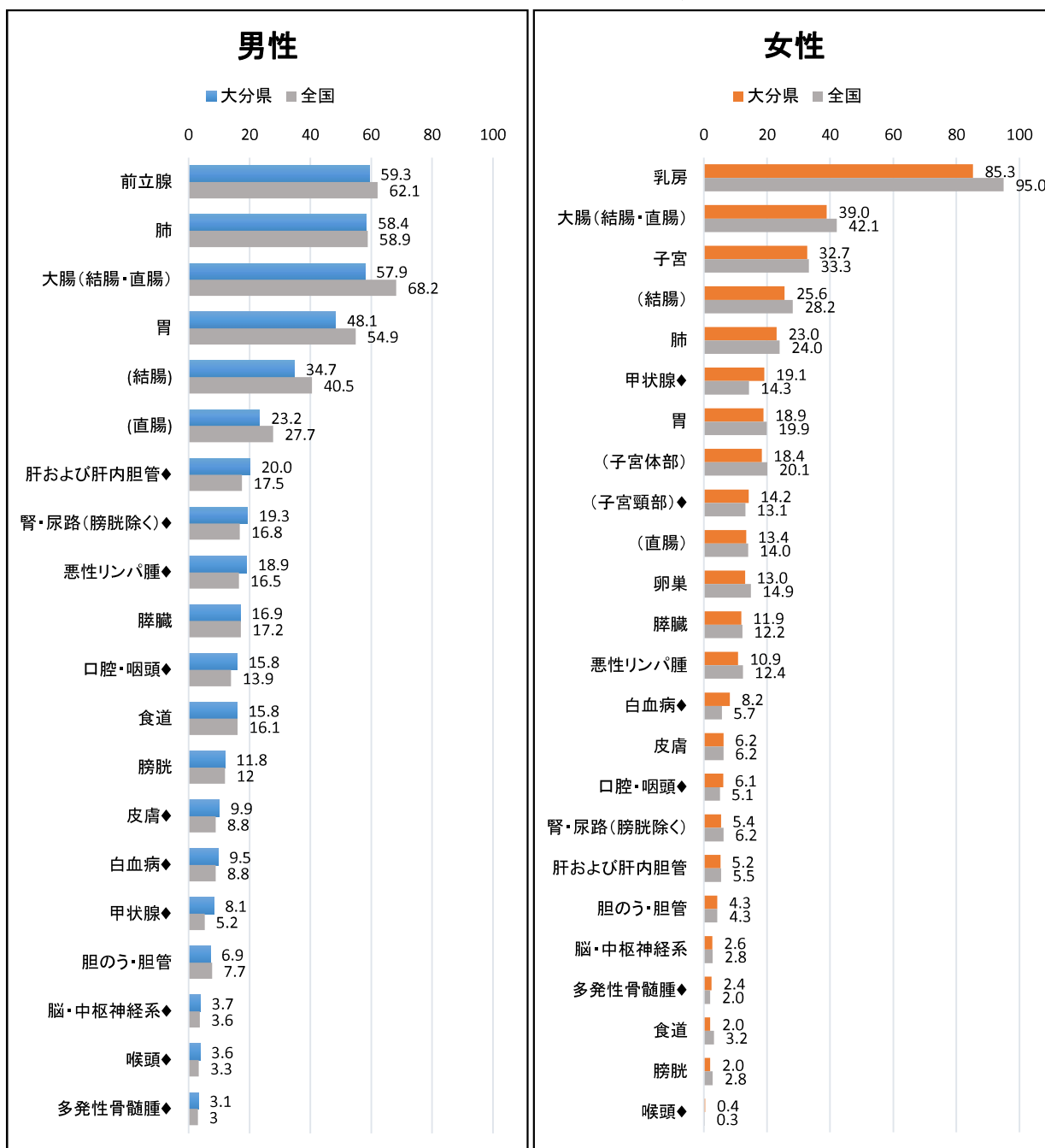


(2) がん年齢調整罹患率

大分県の2020年部位別がん年齢調整罹患率をみると、男性で最も高い部位は前立腺(59.3)であり、肺(58.4)、大腸(結腸・直腸)(57.9)、胃(48.1)、肝および肝内胆管(20.0)と続く。大分県の男性は、肝および肝内胆管、腎・尿路(膀胱除く)、悪性リンパ腫、口腔・咽頭、皮膚、白血病、甲状腺、脳・中枢神経系、喉頭、多発性骨髄腫の年齢調整罹患率が全国値より高い傾向である。

大分県の女性では、乳房(85.3)、大腸(結腸・直腸)(39.0)、子宮(32.7)、肺(23.0)、甲状腺(19.1)の順に高い。大分県の女性は、甲状腺、子宮頸部、白血病、口腔・咽頭、多発性骨髄腫、喉頭の年齢調整罹患率が全国値より高い傾向である。

大分県と全国のがん年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く) \*表1-A参照



◎◆は、年齢調整罹患率が全国値より高い部位

◎全国値は、厚生労働省健康局がん・疾病対策課「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」より

◎基準人口は昭和60年(1985年)モデル人口を使用



(3) 年齢階級別からみたがん罹患

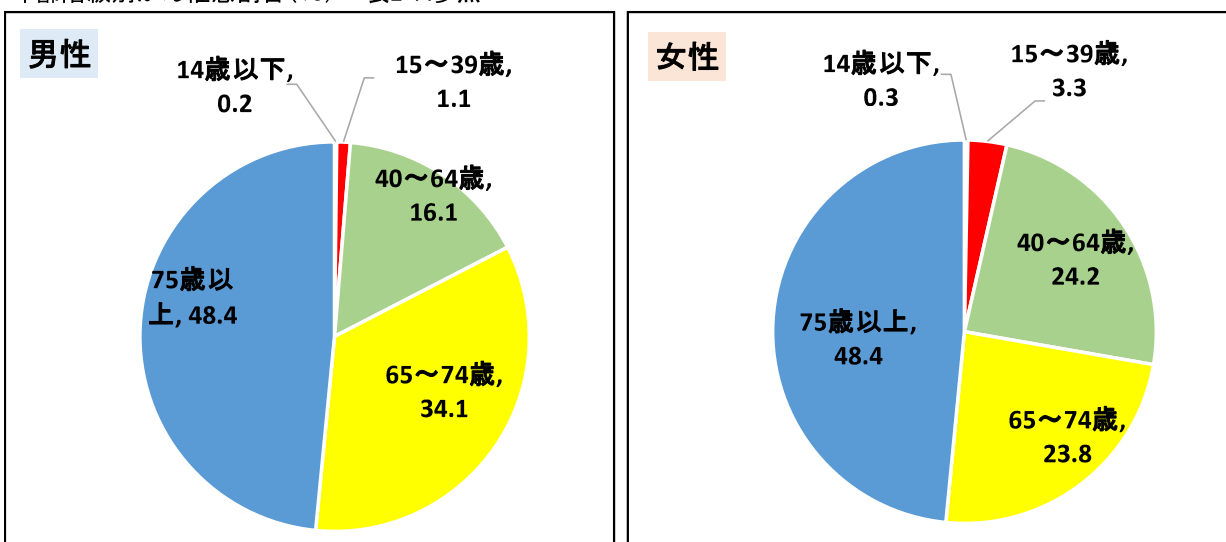
2020年に新たに診断されたがんを年齢階級別にみると、65歳以上の割合が男性が82.5%、女性が72.2%を占めている。働き盛りの年齢である40～64歳の罹患割合は、男性が16.1%、女性が24.2%である。この年齢層で男性より女性の罹患数が多いのは、乳房・子宮の罹患割合が高いためである。AYA世代といわれる15～39歳の年齢層をみると、男性では大腸(結腸・直腸)、甲状腺、口腔・咽頭、悪性リンパ腫、白血病の罹患割合が高く、女性では乳房、甲状腺、子宮の罹患割合が高い。また、14歳以下の小児に発生したがんは、20件である。

年齢階級別罹患率をみると男性では大腸の曲線の立ち上がり早く、30代後半から上昇している。胃、肺は40代後半から上昇し、その他の部位は50代前半から上昇が始まっている。また、どの部位も50代から急激に上昇している。女性では、20代後半から乳房・子宮が上昇している。乳房では、40代後半と60代前半の2回の上昇があるのが特徴的である。大腸は、30代後半から上昇し始め、その他の部位は男性と同様に50代から上昇しているが、男性に比べて増加が緩やかである。

年齢階級別がん罹患数 \*表2-A参照

年齢階級	14歳以下	15-39歳	40-64歳	65-74歳	75歳以上	総数
男性	9	57	814	1,725	2,447	5,052
女性	11	129	951	937	1,906	3,934
総数	20	186	1,765	2,662	4,353	8,986

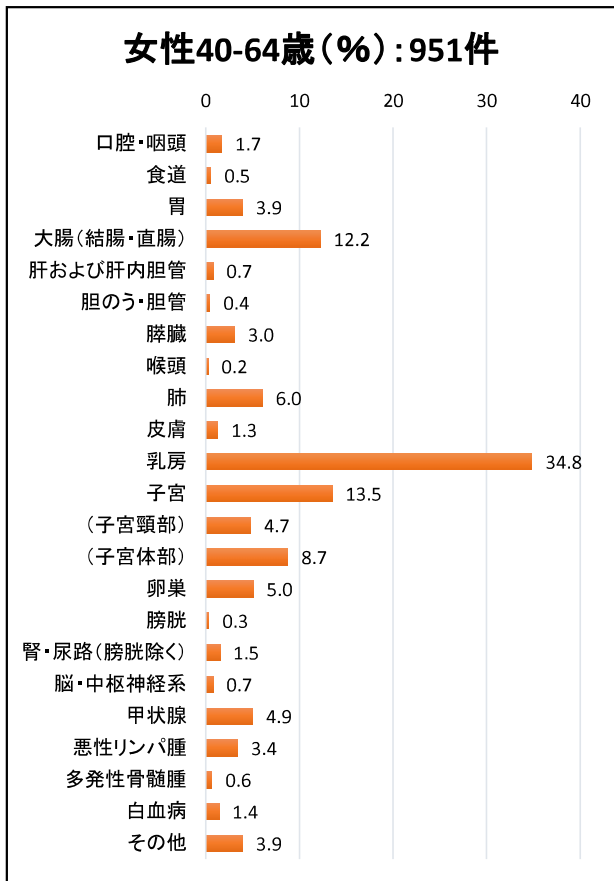
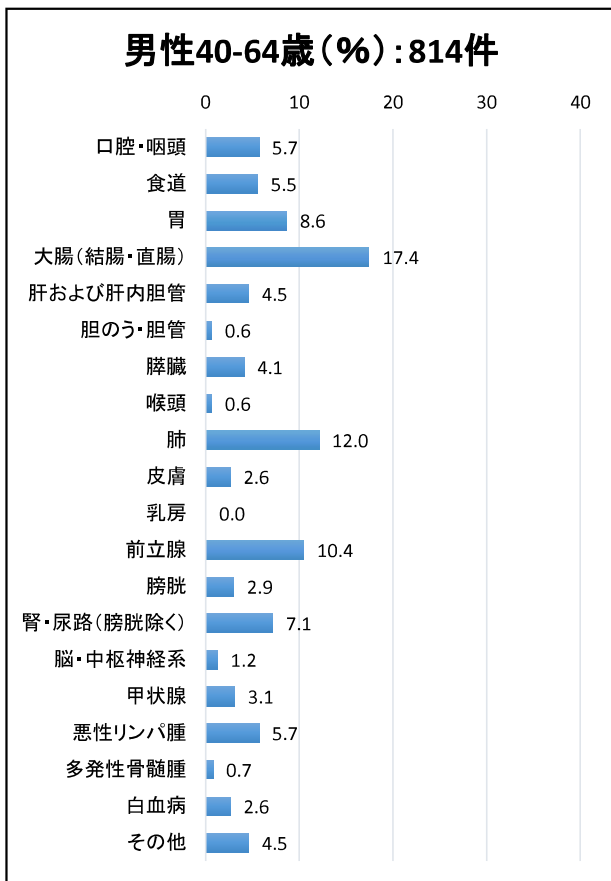
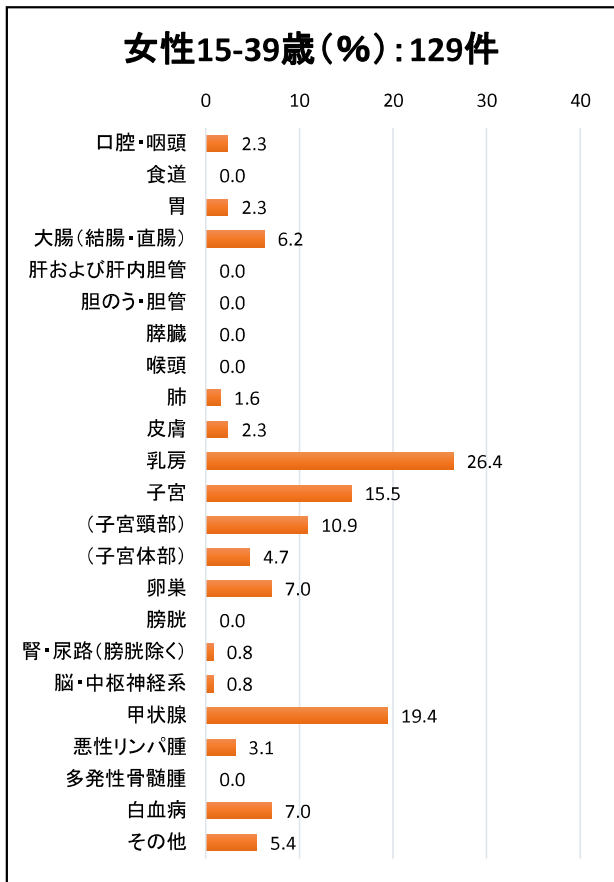
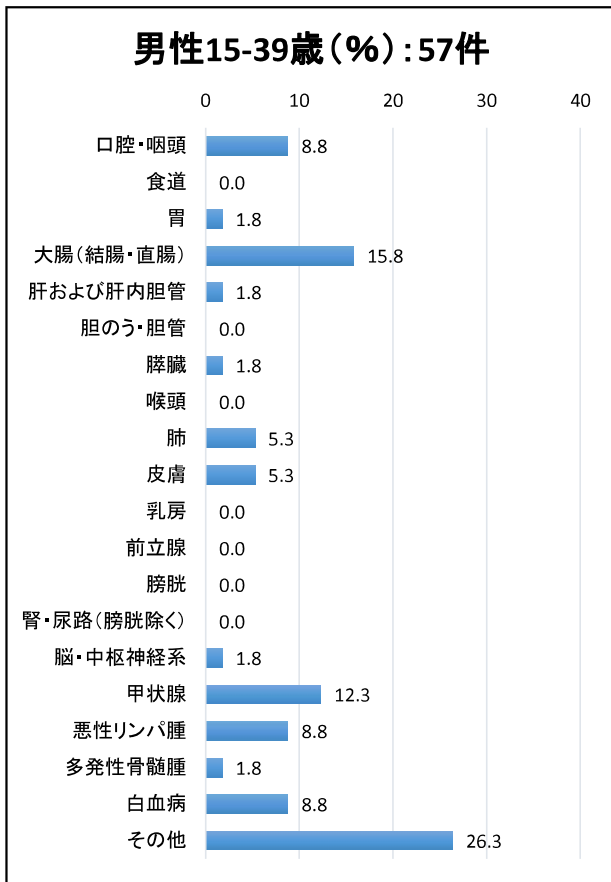
年齢階級別がん罹患割合(%) \*表2-A参照

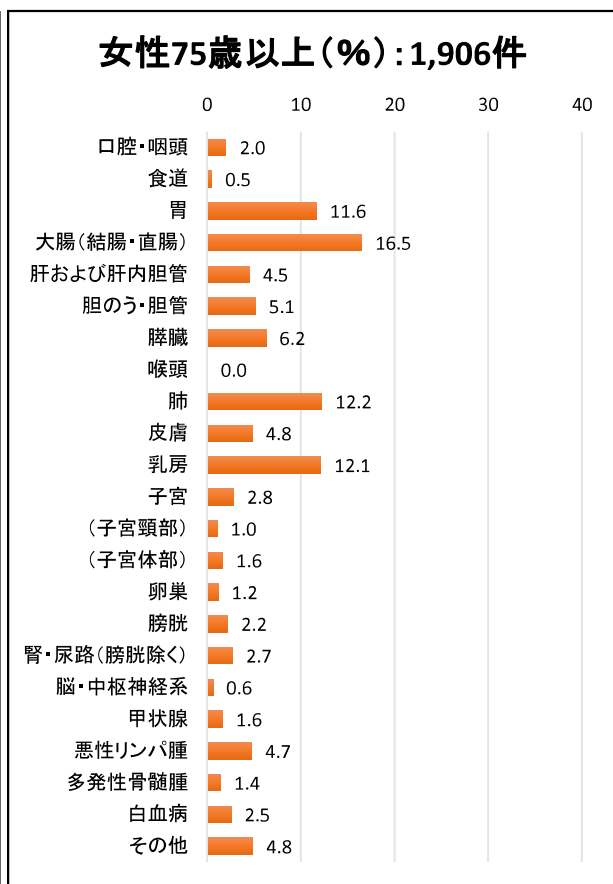
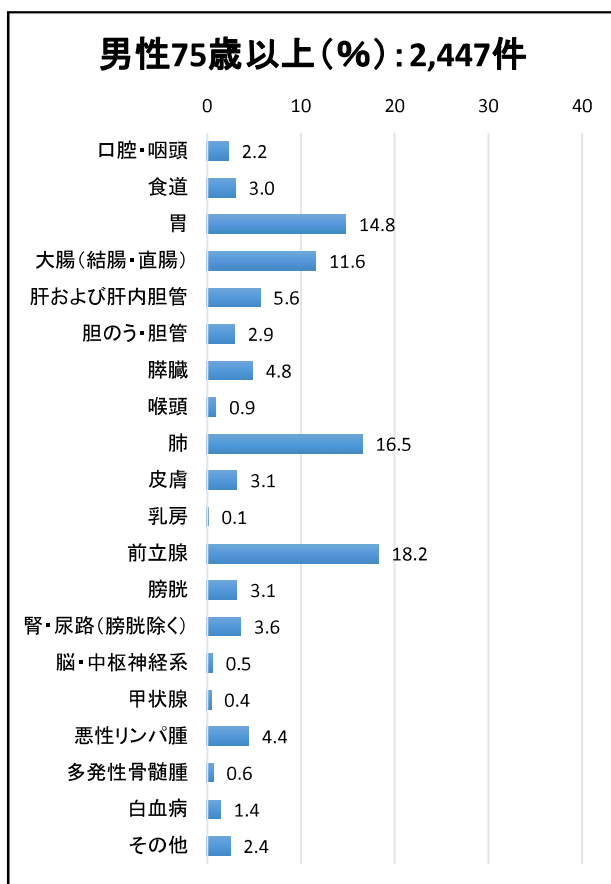
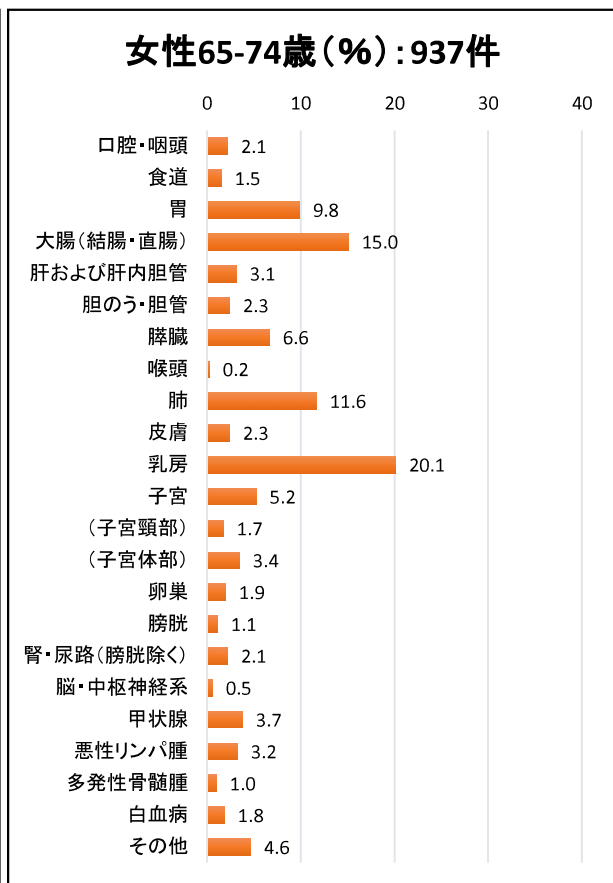
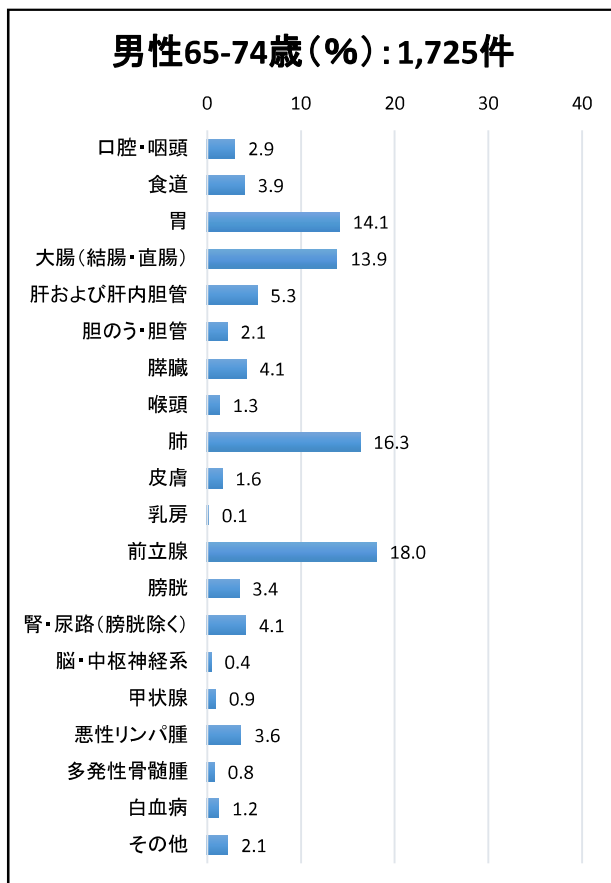


年齢階級別罹患順位: 男女別、上皮がんを除く \*表2-A参照

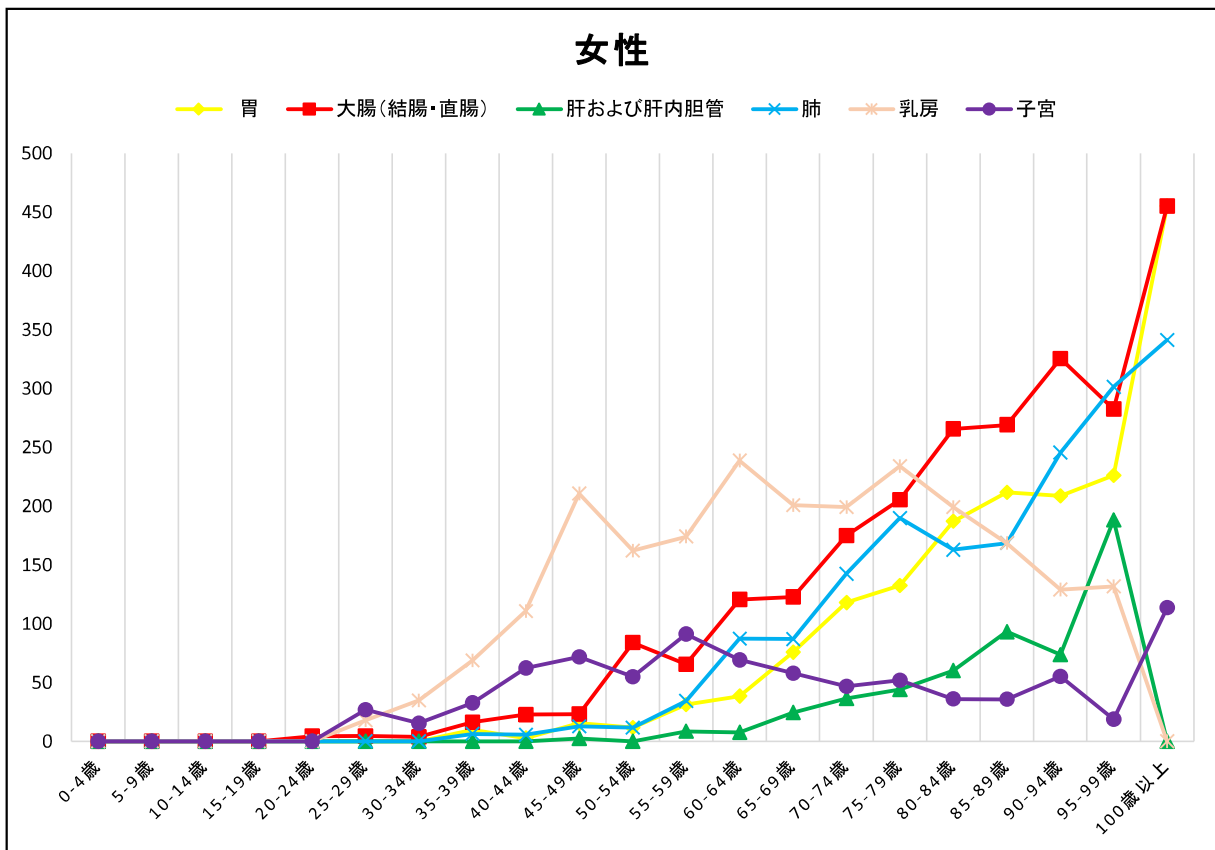
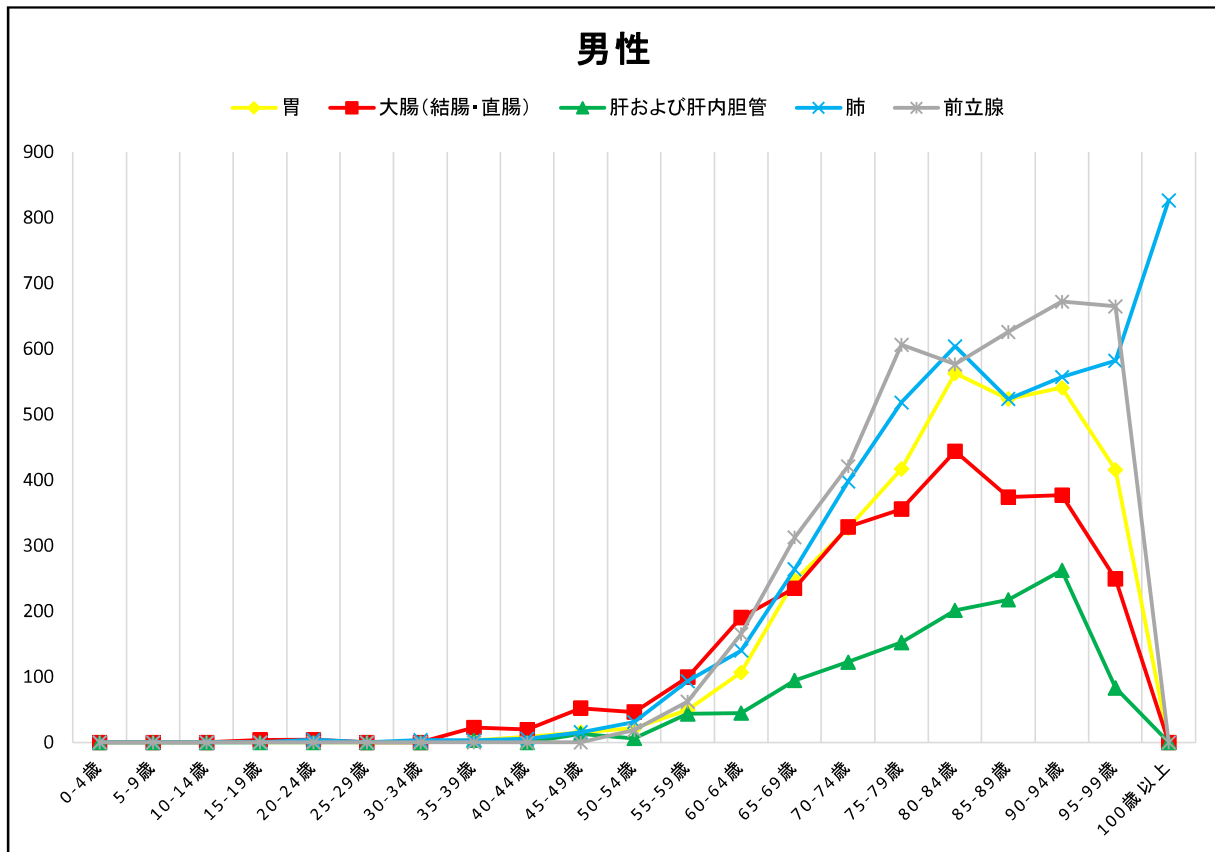
	15-39歳	40-64歳	65-74歳	75歳以上
男性	1 大腸(結腸・直腸)	大腸(結腸・直腸)	前立腺	前立腺
	2 甲状腺	肺	肺	肺
	3 口腔・咽頭、 悪性リンパ腫、白血病	前立腺	胃	胃
女性	1 乳房	乳房	乳房	大腸(結腸・直腸)
	2 甲状腺	子宮	大腸(結腸・直腸)	肺
	3 子宮	大腸(結腸・直腸)	肺	乳房
	<b>14歳以下</b>			
	1 白血病			
総数	2 脳・中枢神経系			
	3 卵巣、甲状腺、 悪性リンパ腫			

年齢階級別部位別がん罹患割合(%) (上皮内がんを除く) \*表2-A参照

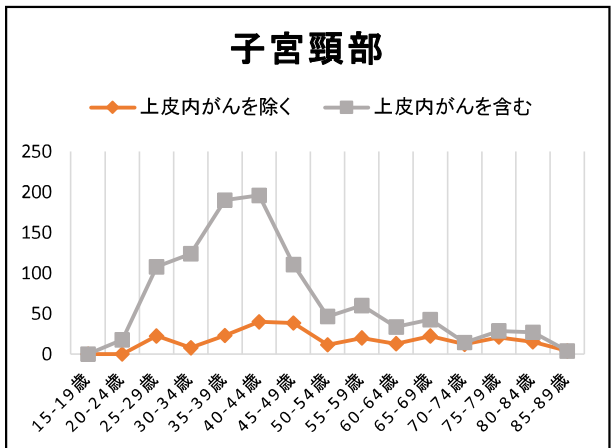
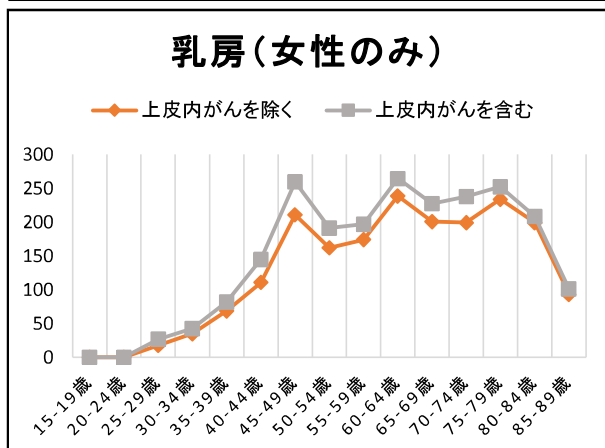
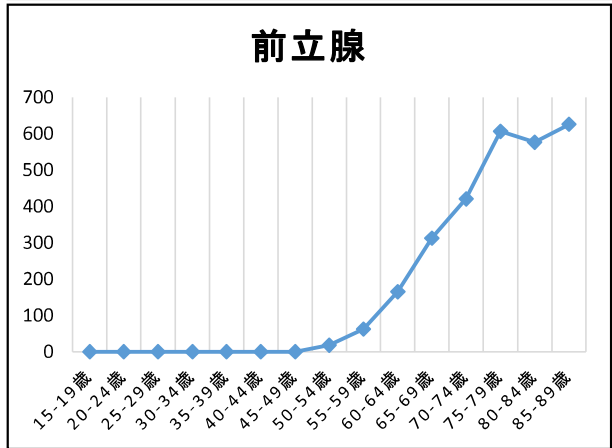
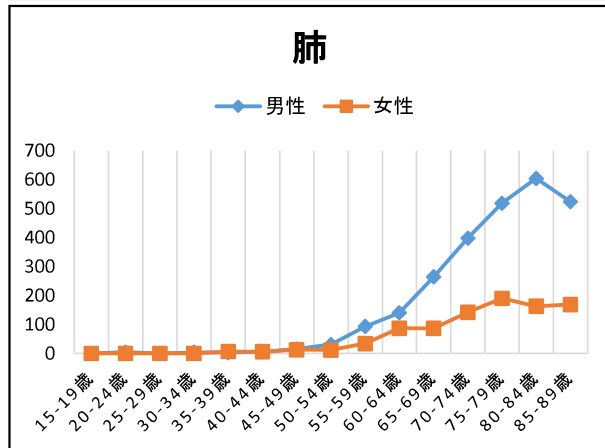
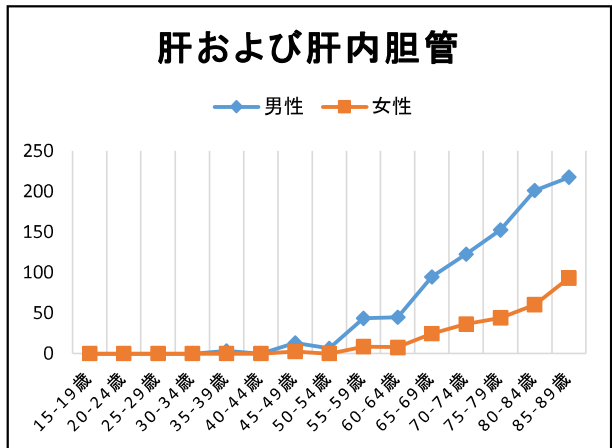
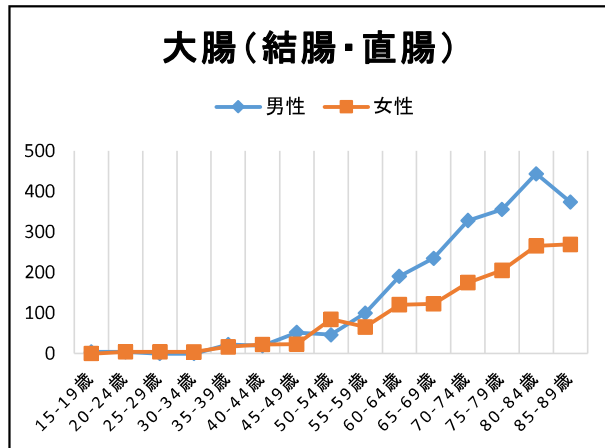
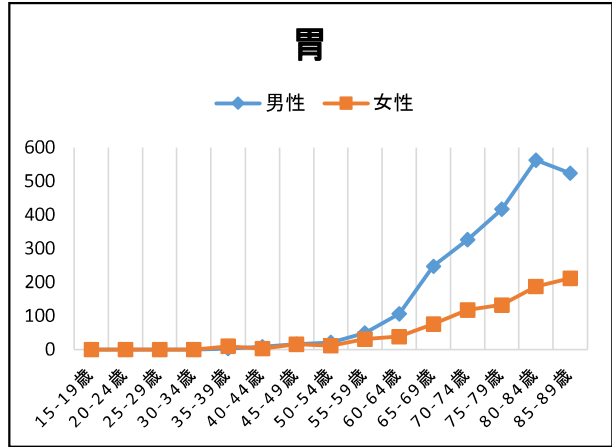
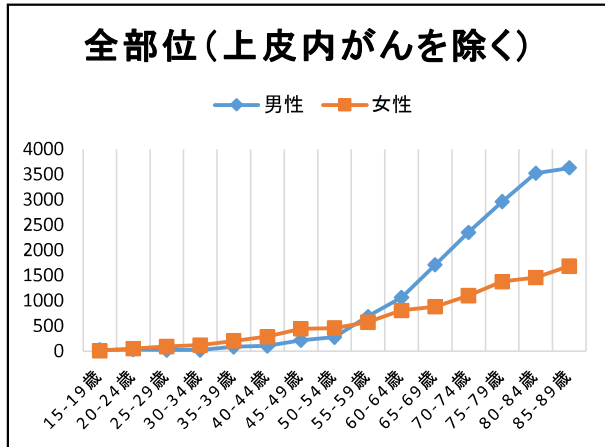




年齢階級別罹患率(人口10万対):上皮内がんを除く \*表3-1A参照



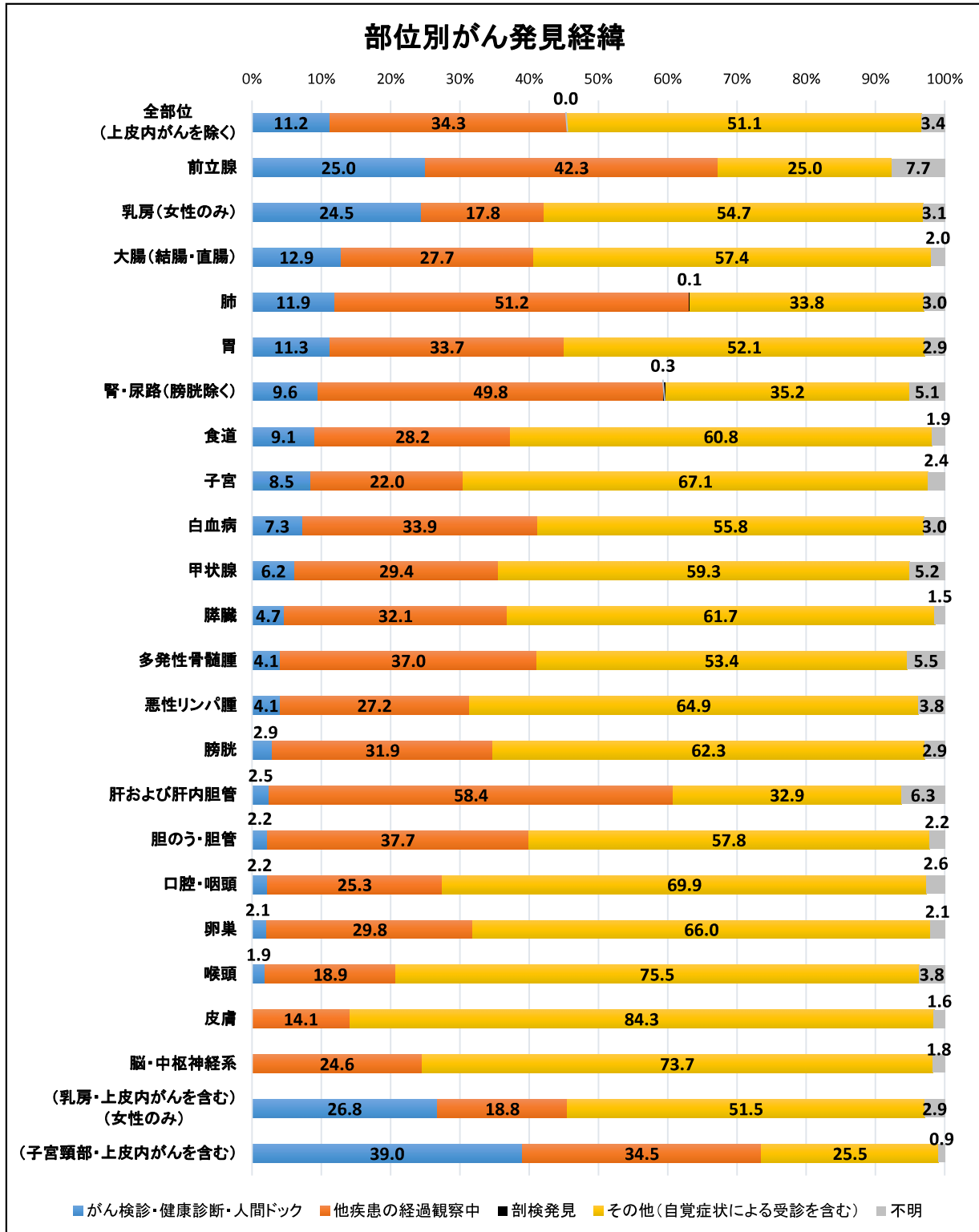
部位別年齢階級別罹患率(人口10万対) \*表3-1A、表3-1B参照



(4) 発見経緯からみたがんの罹患

2020年に診断されたがんの発見経緯を全部位でみると、その他(自覚症状による受診を含む)が最も多く(51.1%)、他疾患の経過観察中(34.3%)、がん検診・健康診断・人間ドック(11.2%)と続く。がん検診・健康診断・人間ドックによって発見された症例の割合が多い部位を並べると、前立腺(25.0%)、乳房(女性のみ・24.5%)、大腸(結腸・直腸・12.9%)、肺(11.9%)、胃(11.3%)の順であった。この割合は、上皮内がんを含むと、子宮頸部(39.0%)、乳房(女性のみ・上皮内がんを含む・26.8%)が増大し、上位となる。

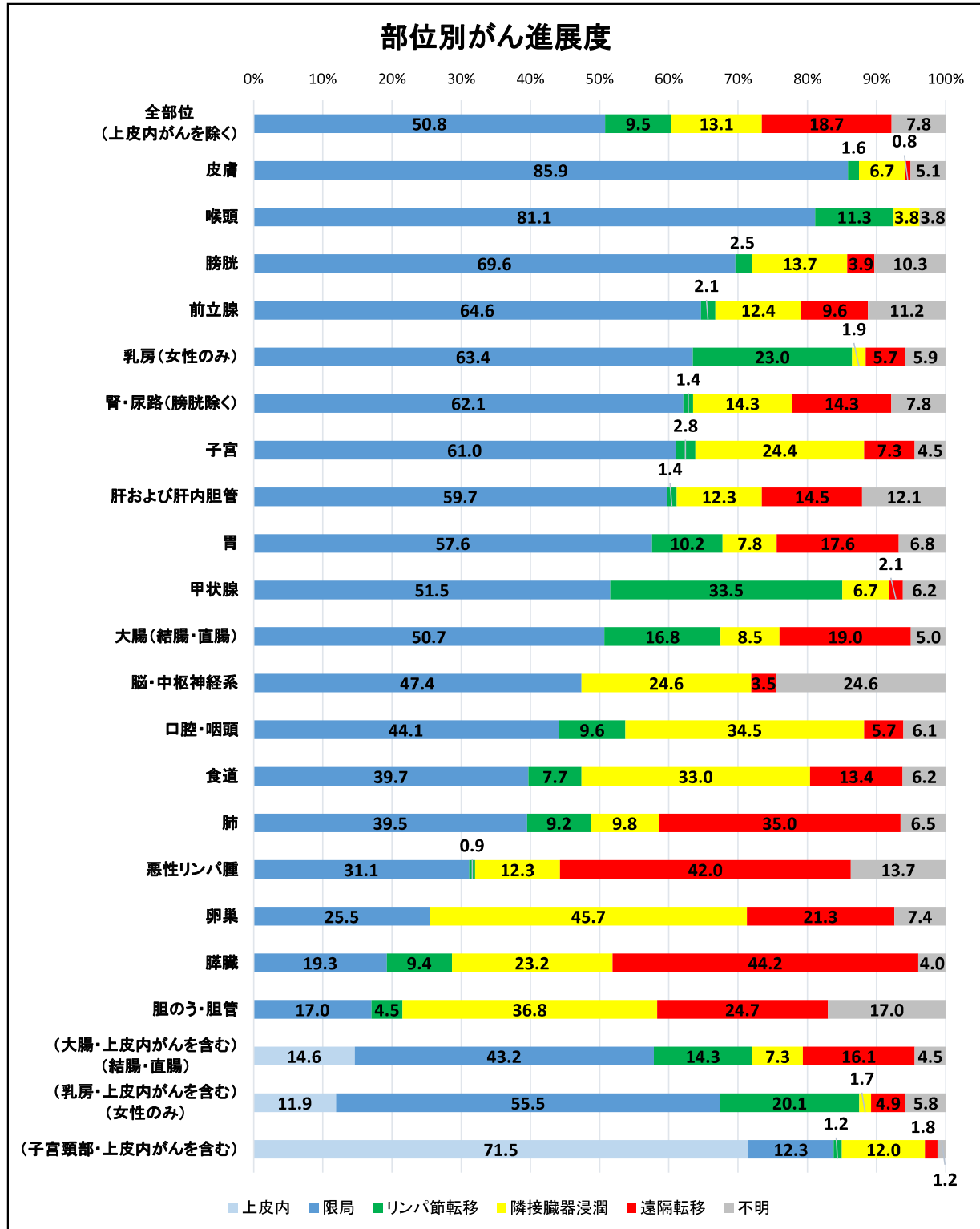
\*表4-A、表4-B参照



(5)臨床進行度からみたがんの罹患

2020年に診断されたがんの初回診断時の進展度を全部位で見ると、50.8%が限局にとどまっている。部位別にみると、限局にとどまっている割合は、皮膚(85.9%)、喉頭(81.1%)、膀胱(69.6%)、前立腺(64.6%)、乳房(女性のみ・63.4%)の順で高い。市町村による対策型検診の対象部位の限局までにとどまっている割合は、胃(57.6%)、大腸(結腸・直腸・上皮内がんを含む)(57.8%)、肺(39.5%)、乳房(上皮内がんを含む・女性のみ)(67.4%)、子宮頸部(上皮内がんを含む)(83.8%)となっている。

\*表5-1A、表5-1B参照



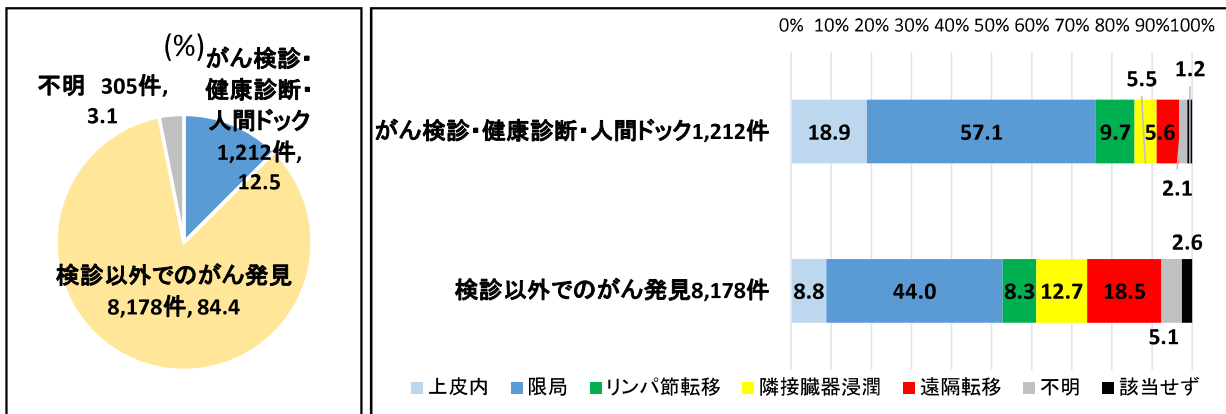
(6) がんの発見経緯と進展度

全国がん登録データベースシステム研究利用目的データ(匿名化情報2020年確定時)から、がんの発見経緯別の進展度を集計した(DCO症例を除く)。

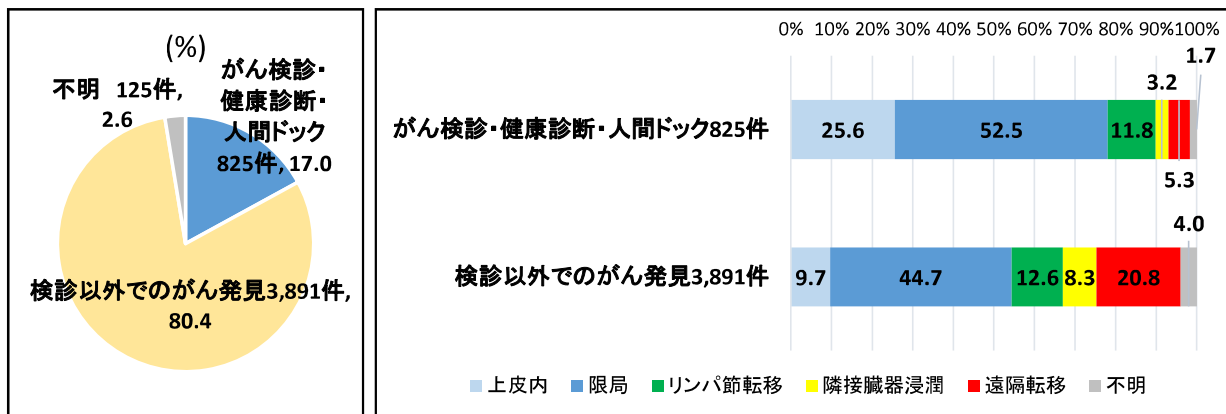
上皮内がんを含む全部位で見ると、がん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんの進展度は、76.0%が上皮内+限局であり早期に発見されている。検診以外で発見されたがんの進展度は、52.8%が上皮内+限局であり、39.5%が何らかの転移の状態で見られている。市町村による対策型検診の対象5部位で、がん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんの進展度をみると、上皮内+限局で見られたがんの割合は、78.1%になる。

部位別にがん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんの進展度をみると、上皮内+限局で見られたがんの割合は、胃(81.4%)、大腸(結腸・直腸、上皮内がんを含む 79.4%)、肺(上皮内がんを含む 52.2%)、乳房(上皮内がんを含む 79.8%)、子宮頸部(上皮内がんを含む 96.9%)である。

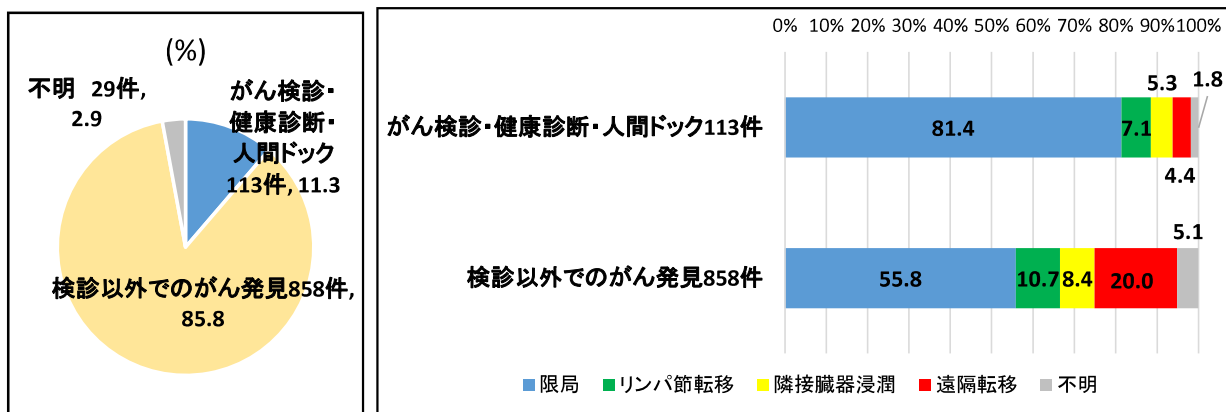
全部位(上皮内がんを含む) 集計対象:9,695件



検診対象5部位のがん(胃、大腸、肺、乳房、子宮)(上皮内がんを含む) 集計対象:4,841件

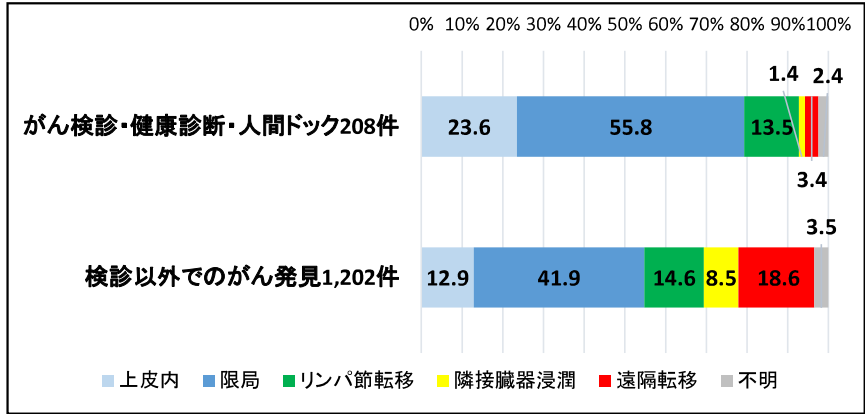
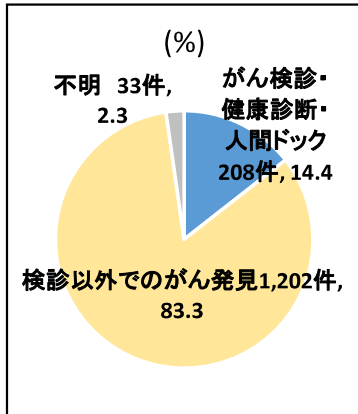


胃 集計対象:999件

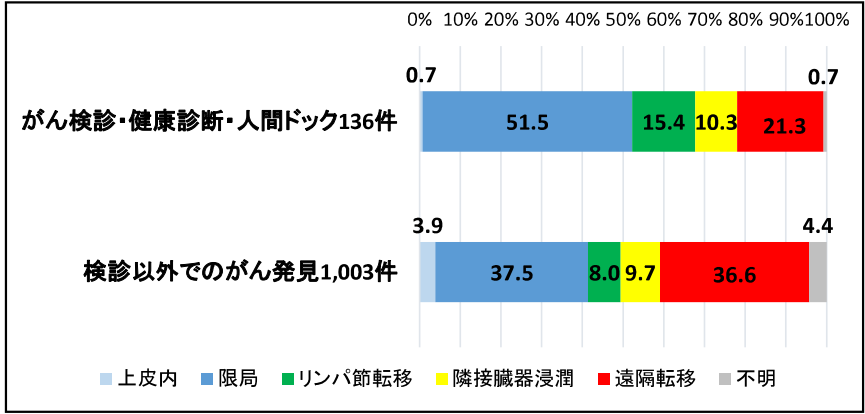
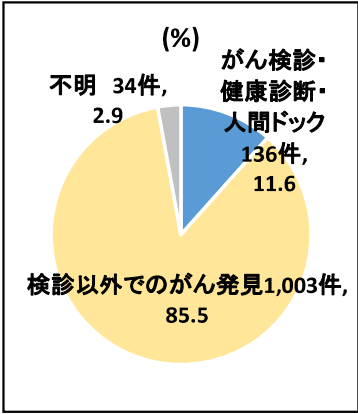




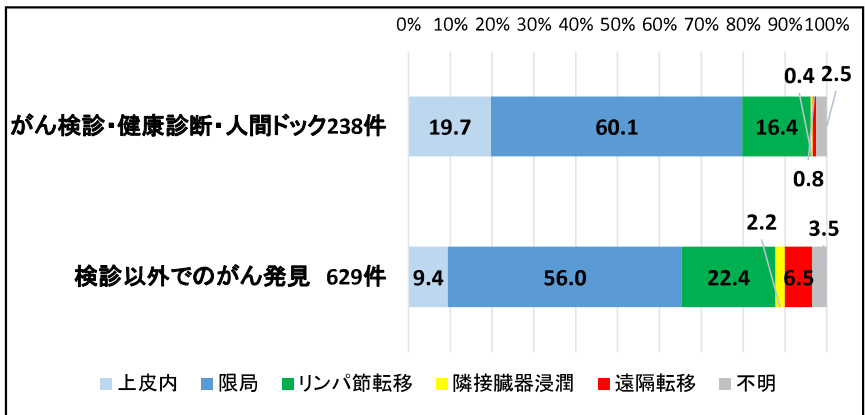
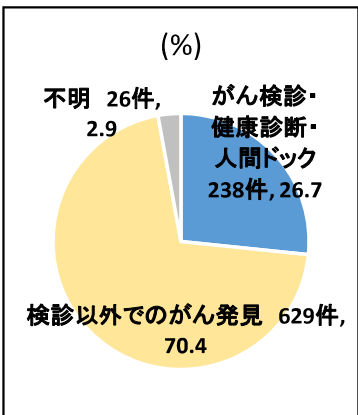
大腸(結腸・直腸、上皮内がんを含む) 集計対象:1,443件



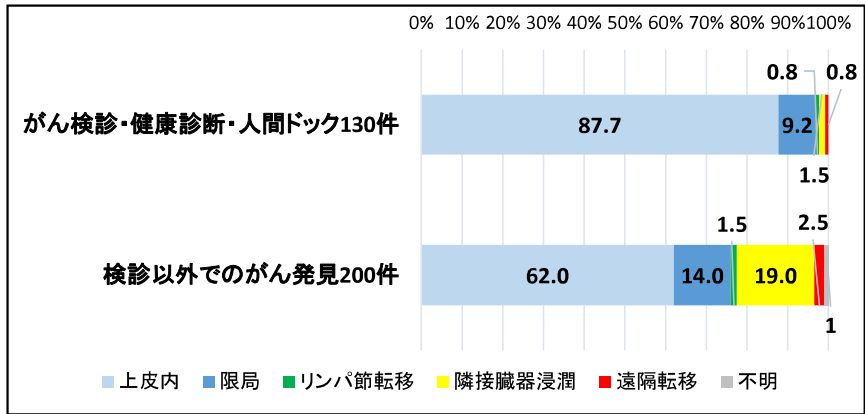
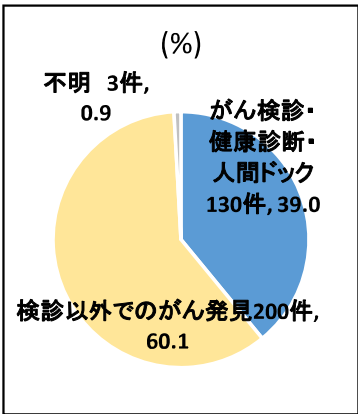
肺(上皮内がんを含む) 集計対象:1,173件



乳房(上皮内がんを含む) 集計対象:893件



子宮頸部(上皮内がんを含む) 集計対象:333件

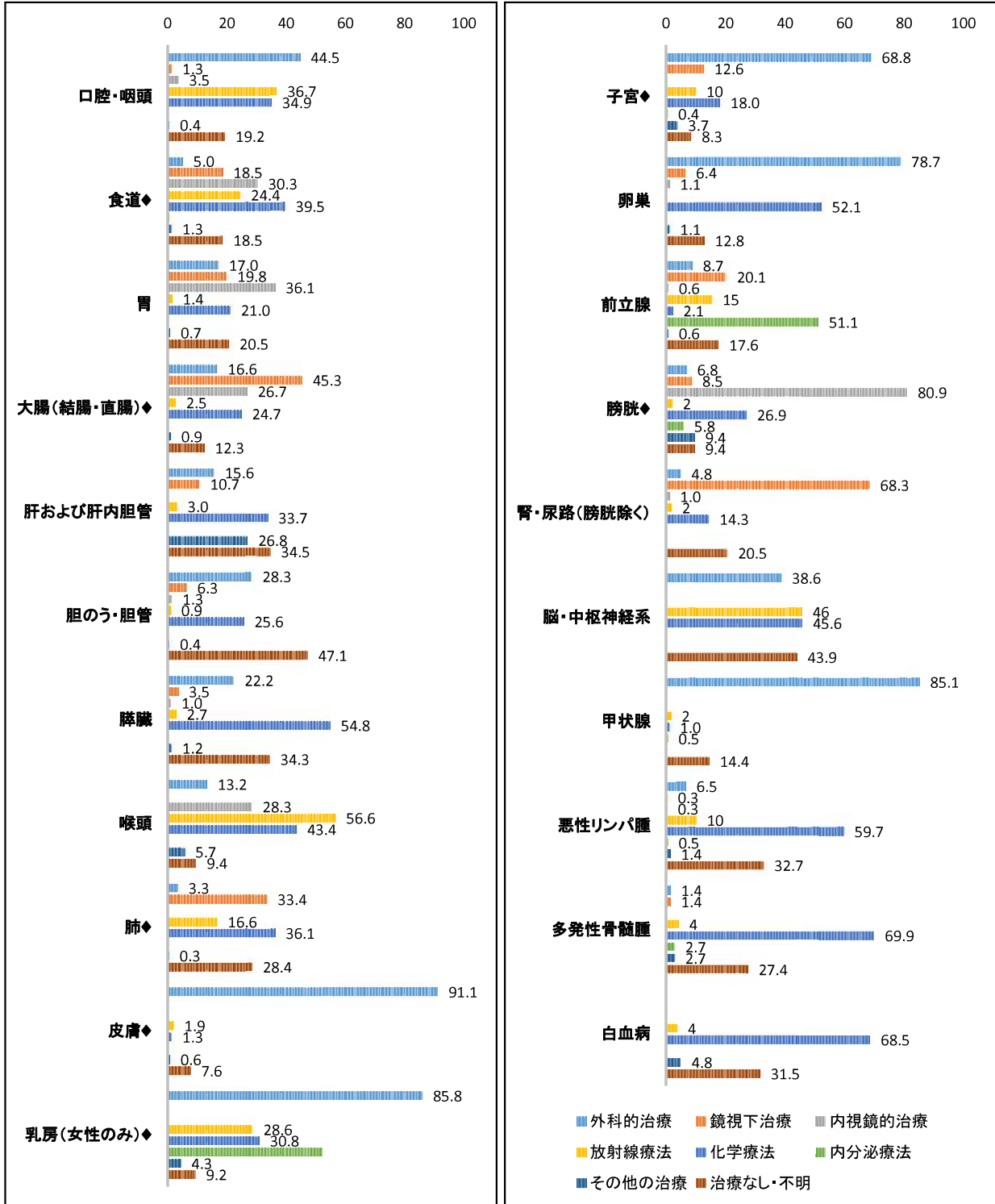


(7) 初回治療の方法

初回治療の方法は、受療状況に合わせて複数回答のため、合計は100%にならない。

外科的・鏡視下・内視鏡的治療が多く施術されている部位は、胃、大腸(結腸・直腸)、皮膚、乳房(女性のみ)、子宮、卵巣、膀胱、腎・尿路(膀胱除く)で、放射線療法は、口腔・咽頭、食道、喉頭、乳房(女性のみ)、脳・中枢神経系で多く加療されている。化学療法は、ほとんどの部位で適用されているが、特に、白血病、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、卵巣、膵臓が多い。内分泌療法は、前立腺、乳房(女性のみ)で主に適用されており部位が限定されている。

初回治療の割合 \*表6-A、表6-B参照 ◆の部位は上皮内がんを含む

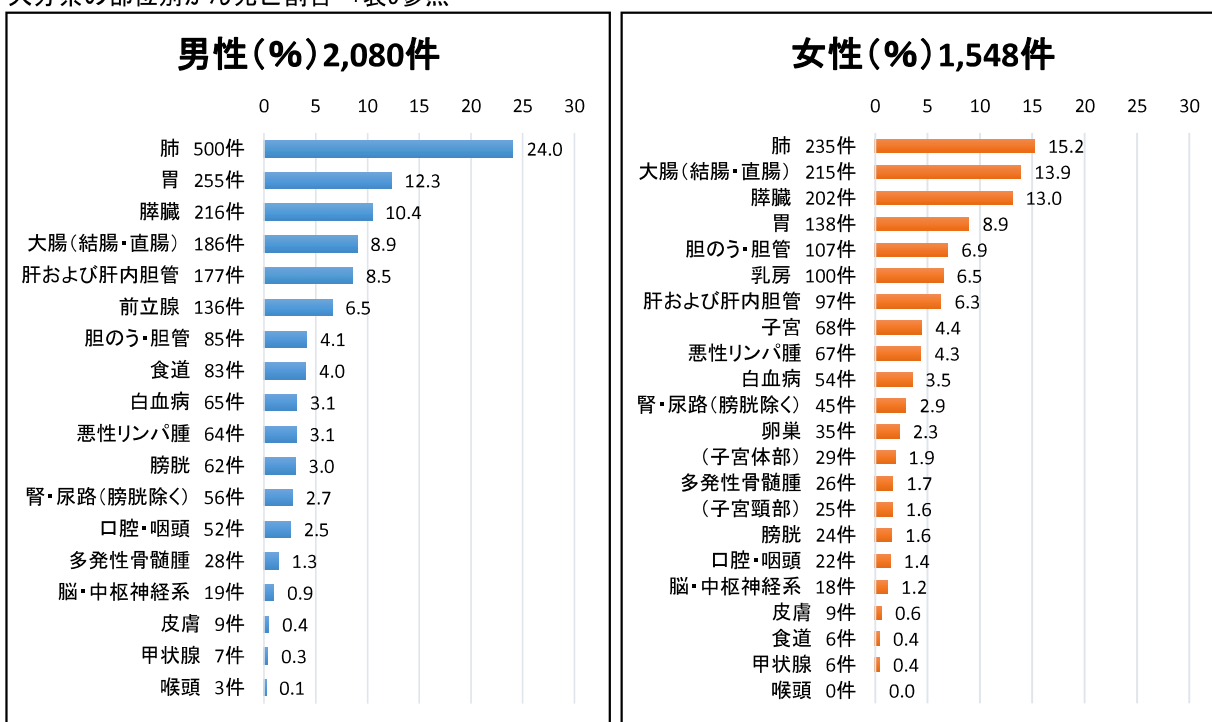


## 大分県のがん死亡の概要

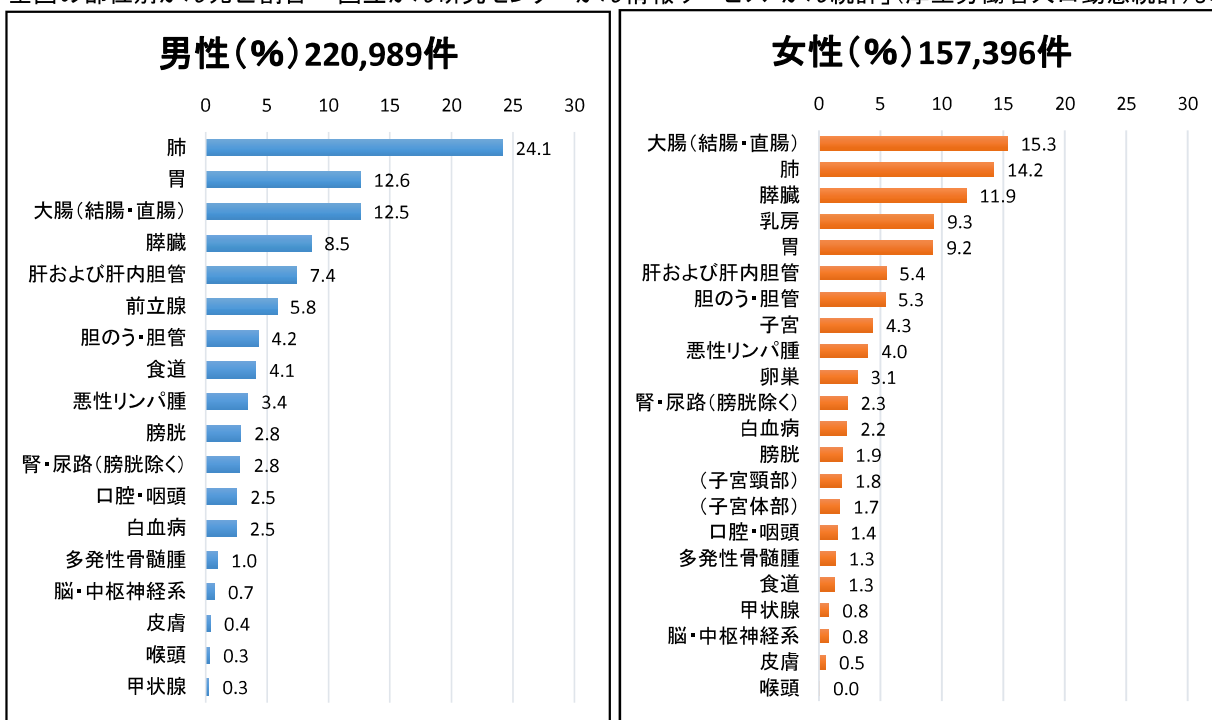
### (1) 全体の概要

2020年の大分県のがん死亡数は、男性2,080件、女性1,548件、総数3,628件であった。男性において、死亡が最も多い部位は肺(24.0%)で、胃(12.3%)、膵臓(10.4%)、大腸(結腸・直腸)(8.9%)、肝および肝内胆管(8.5%)と続く。女性において、死亡が最も多い部位は肺(15.2%)で、大腸(結腸・直腸)(13.9%)、膵臓(13.0%)、胃(8.9%)、胆のう・胆管(6.9%)と続く。全国では、男性において最も死亡が多い部位は肺(24.1%)で、胃(12.6%)、大腸(結腸・直腸)(12.5%)、膵臓(8.5%)、肝および肝内胆管(7.4%)と続く。女性において最も死亡が多い部位は大腸(結腸・直腸)(15.3%)で、肺(14.2%)、膵臓(11.9%)、乳房(9.3%)、胃(9.2%)と続く。

大分県の部位別がん死亡割合 \*表9参照



全国の部位別がん死亡割合 \*国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)より

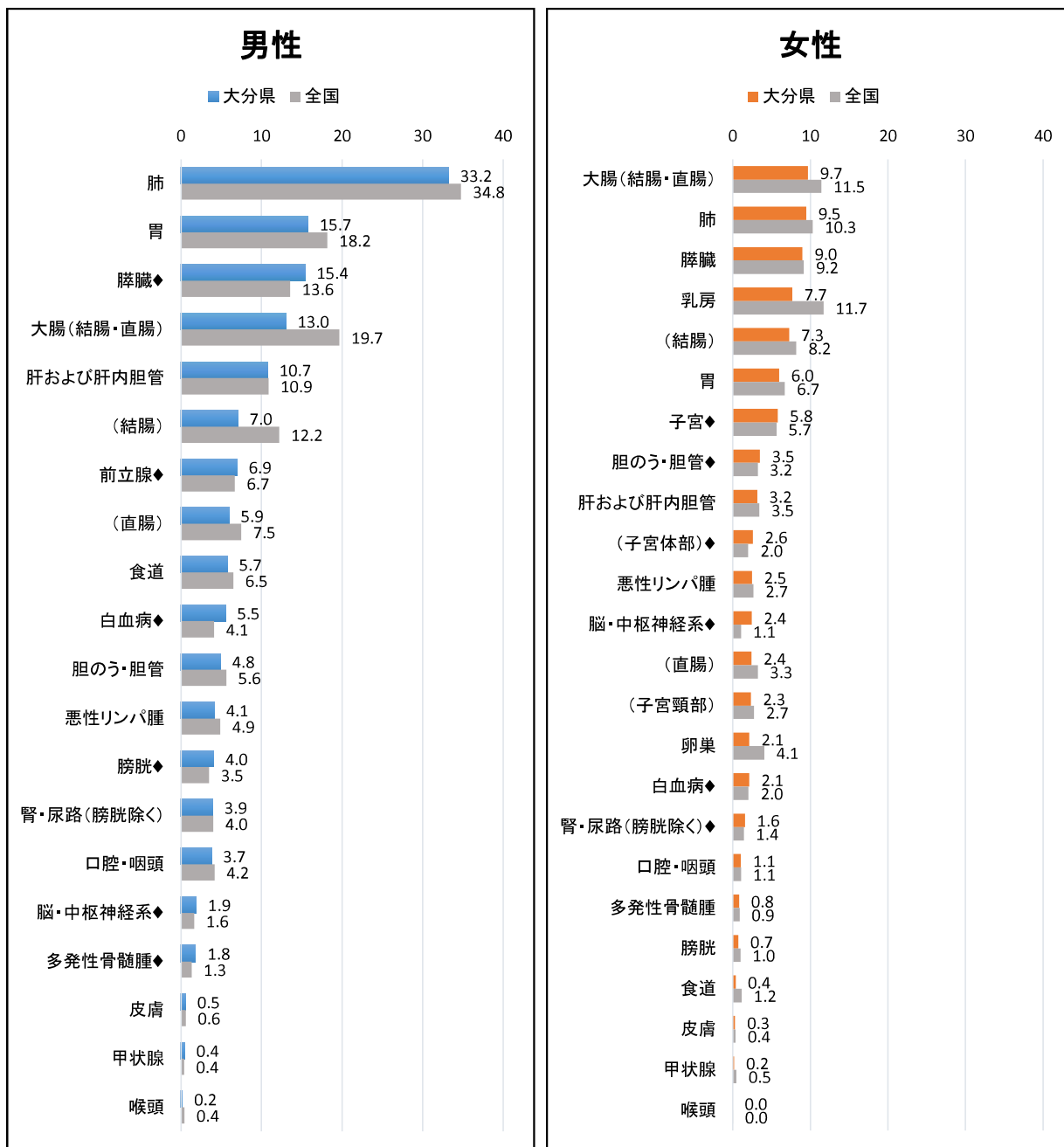


(2)がん年齢調整死亡率

大分県の2020年部位別がん年齢調整死亡率をみると、男性では肺(33.2)、胃(15.7)、膵臓(15.4)、大腸(結腸・直腸)(13.0)、肝および肝内胆管(10.7)の順に高い。全国の男性では肺(34.8)、大腸(結腸・直腸)(19.7)、胃(18.2)、膵臓(13.6)、肝および肝内胆管(10.9)の順に高い。大分県の男性の年齢調整死亡率は、膵臓、前立腺、白血病、膀胱、脳・中枢神経系、多発性骨髄腫、が全国値より高い傾向である。

大分県の女性の年齢調整死亡率をみると、大腸(9.7)、肺(9.5)、膵臓(9.0)、乳房(7.7)、胃(6.0)の順に高い。全国の女性では、乳房(11.7)、大腸(結腸・直腸)(11.5)、肺(10.3)、膵臓(9.2)、胃(6.7)の順に高い。大分県の女性の年齢調整死亡率は、胆のう・胆管、子宮体部、脳・中枢神経系、白血病、腎・尿路(膀胱除く)が全国値より高い傾向である。

大分県と全国のがん年齢調整死亡率(人口10万対) \*表9参照



◎◆は、年齢調整死亡率が全国値より高い部位

◎全国値は、国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)より

◎基準人口は昭和60年(1985年)モデル人口を使用

(3) 年齢階級別からみたがん死亡

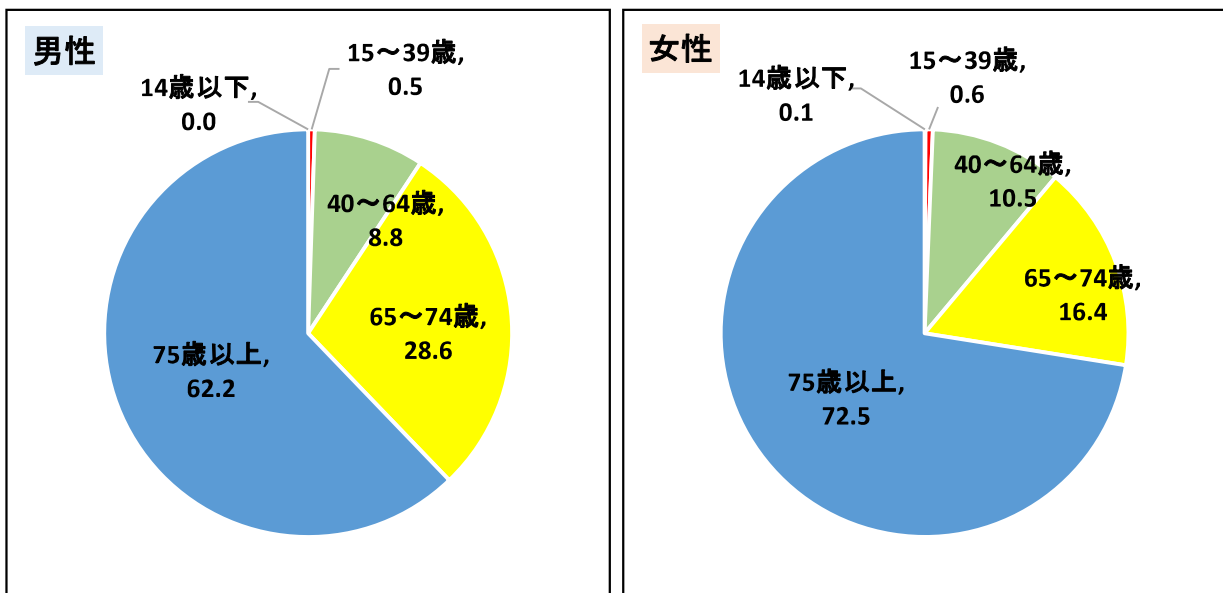
2020年にがんを原因として死亡された件数は、男性では62.2%、女性では72.5%が75歳以上であった。働き盛りの年齢である40～64歳の年齢階級で見ると、男性は肺、膵臓、大腸（結腸・直腸）の順に死亡割合が高く、女性では、乳房、子宮、大腸（結腸・直腸）の順に死亡割合が高い。また、男性では、40歳以上のすべての年齢階級において、死亡が最も多い部位が肺であった。

ほとんどの部位において、年齢とともに罹患率が高くなるため、がんによる死亡率も年齢とともに高くなっている。全部位で死亡率をみると、女性のほうが立ち上がり早く、男性は50代から急激に上昇している。

年齢階級別がん死亡数 \*表10参照

年齢階級	14歳以下	15-39歳	40-64歳	65-74歳	75歳以上	総数
男性	0	11	182	594	1,293	2,080
女性	1	9	162	254	1,122	1,548
総数	1	20	344	848	2,415	3,628

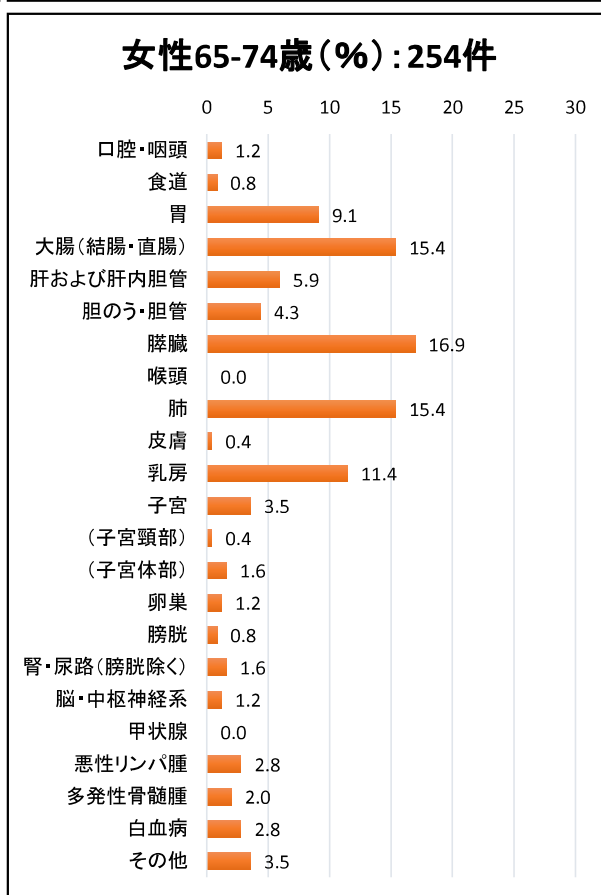
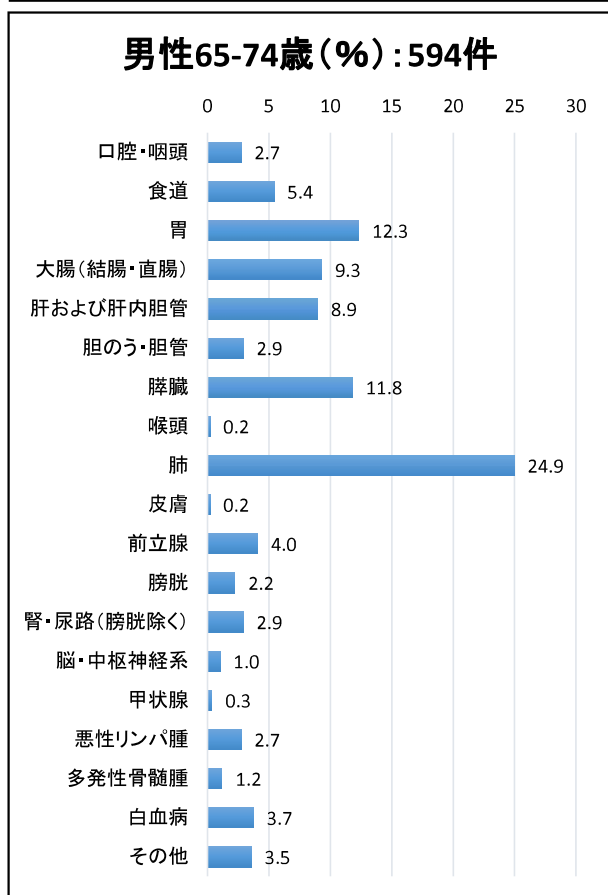
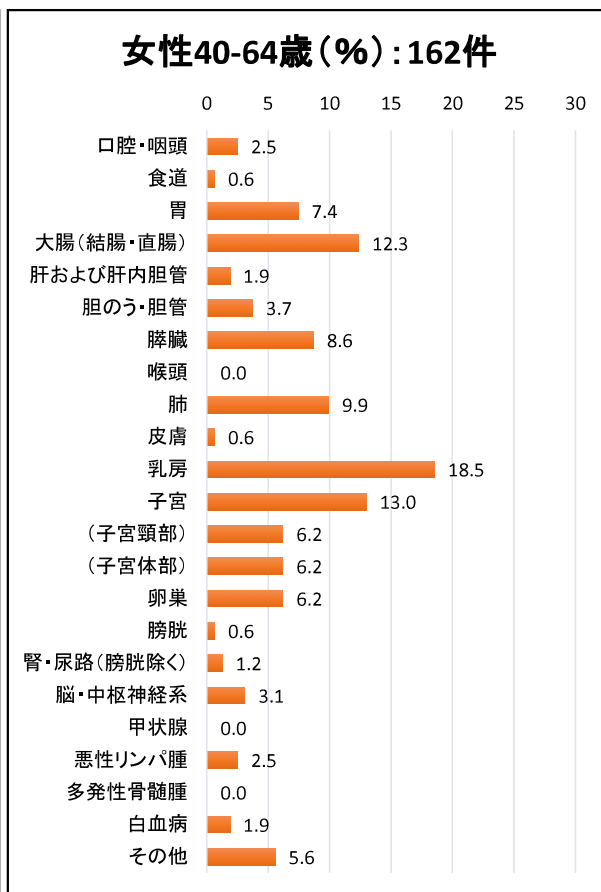
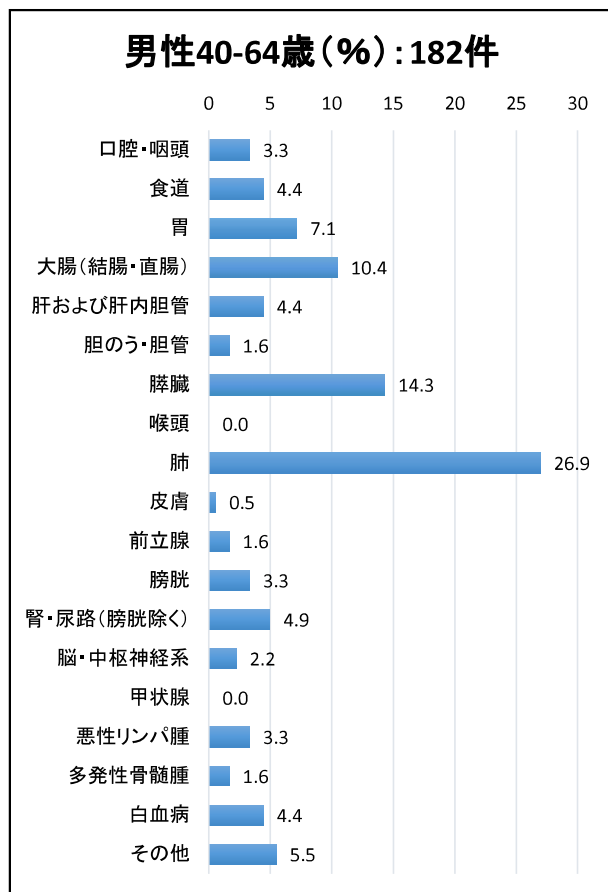
年齢階級別がん死亡割合 \*表10参照

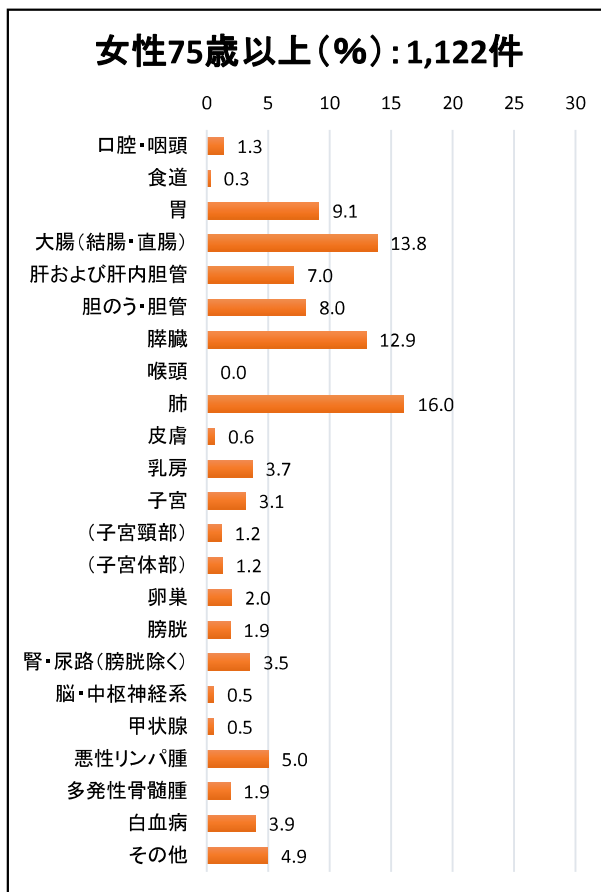
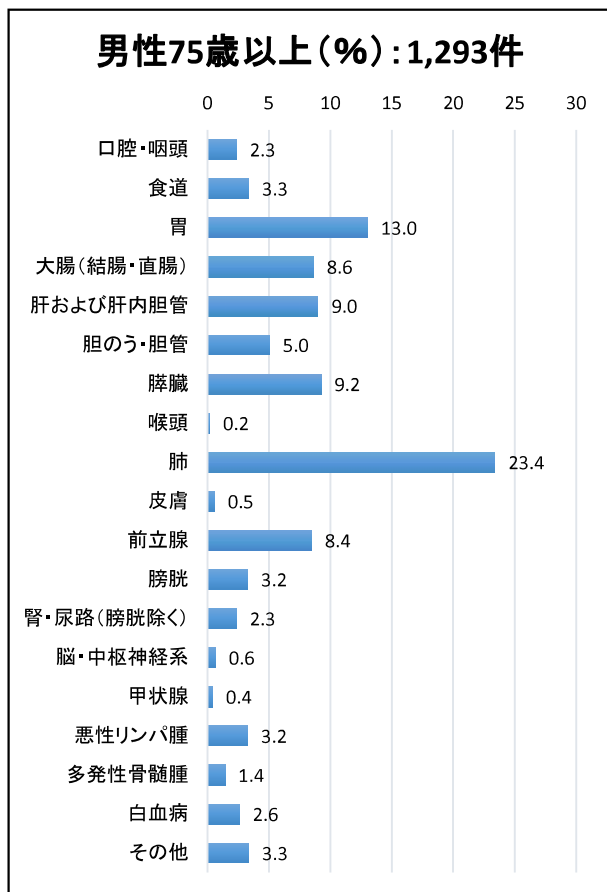


年齢階級別死亡順位: 男女別、\*表10参照

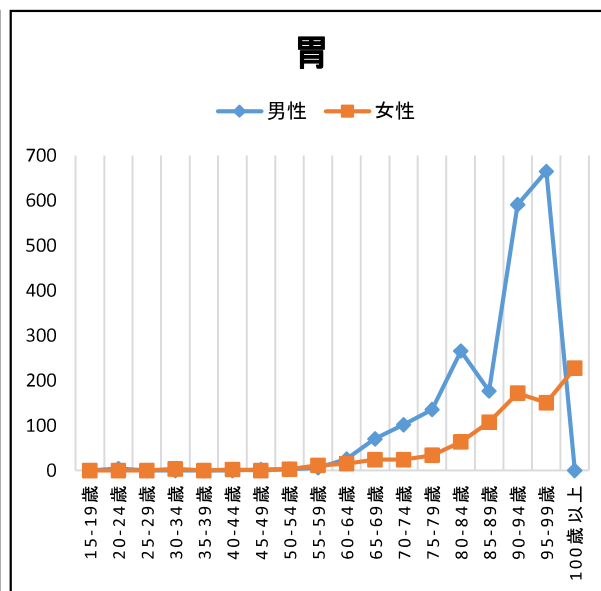
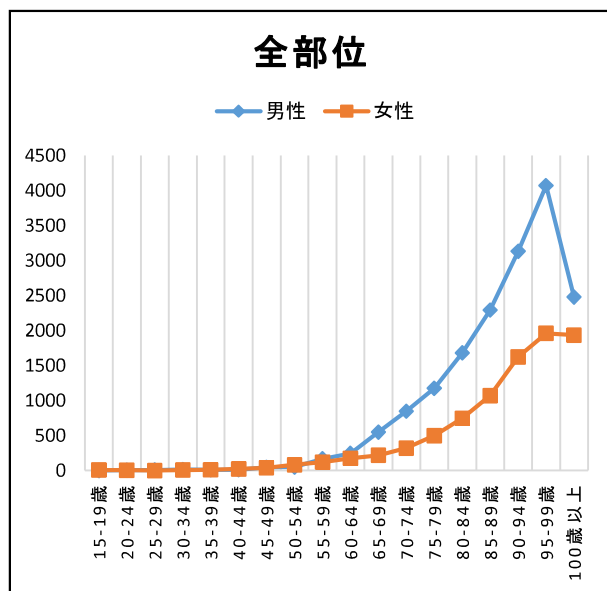
		15-39歳	40-64歳	65-74歳	75歳以上
男性	1		肺	肺	肺
	2	白血病	膵臓	胃	胃
	3	胃、大腸、膵臓、肺、膀胱、脳・中枢神経系	大腸（結腸・直腸）	膵臓	膵臓
女性	1		乳房	膵臓	肺
	2	子宮、脳・中枢神経系	子宮	大腸（結腸・直腸）、肺	大腸（結腸・直腸）
	3	大腸（結腸・直腸）、胃	大腸（結腸・直腸）	乳房	膵臓

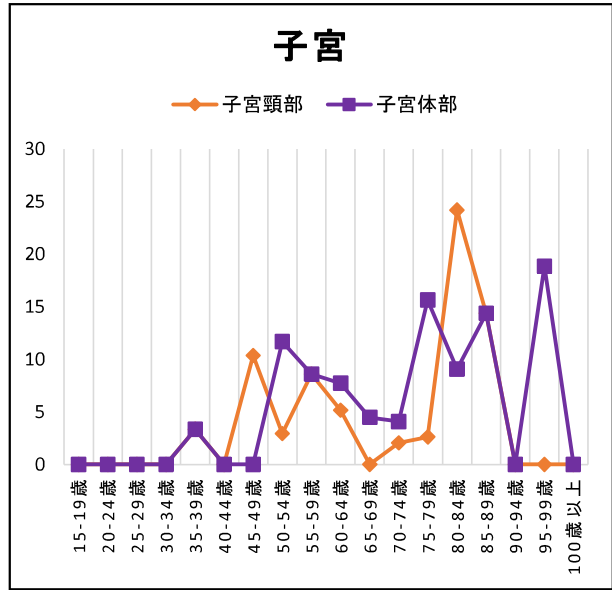
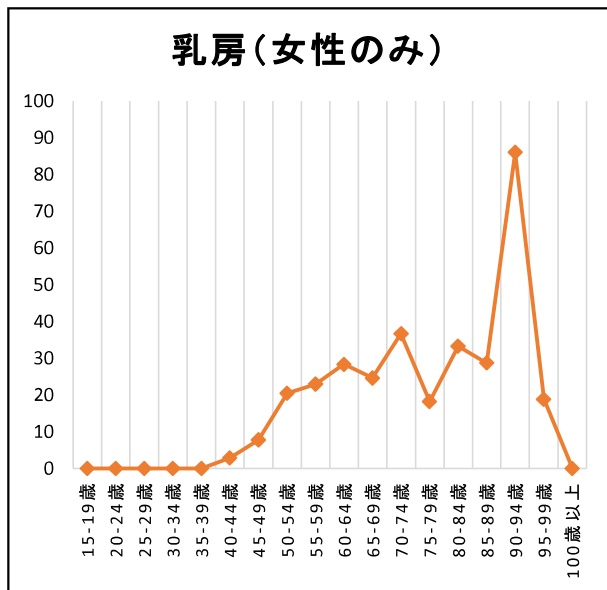
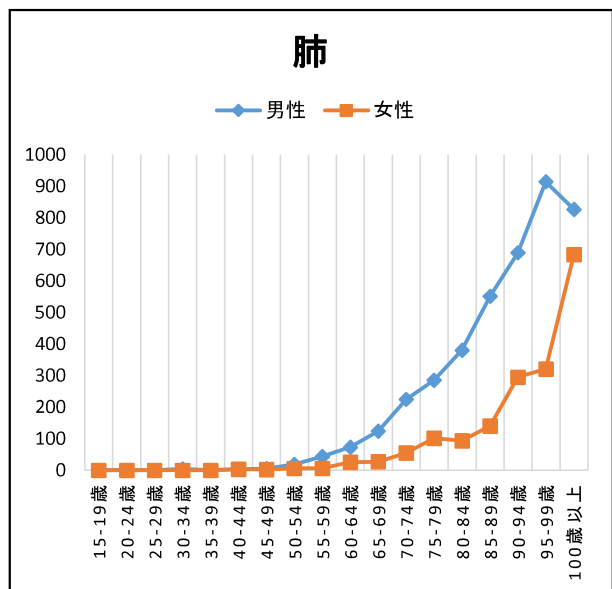
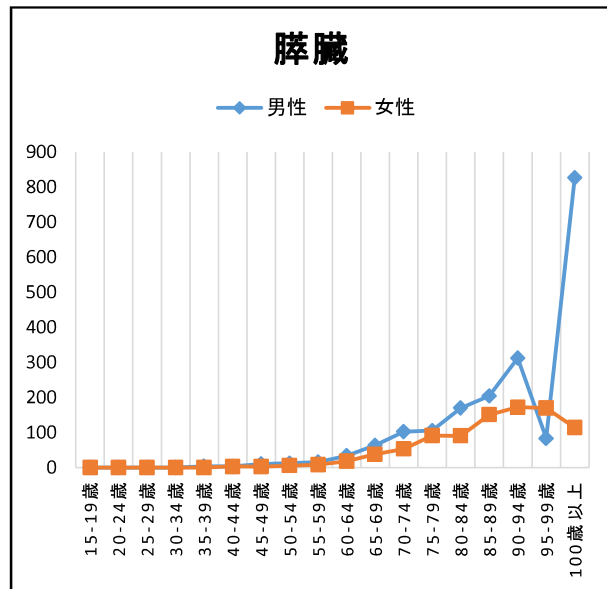
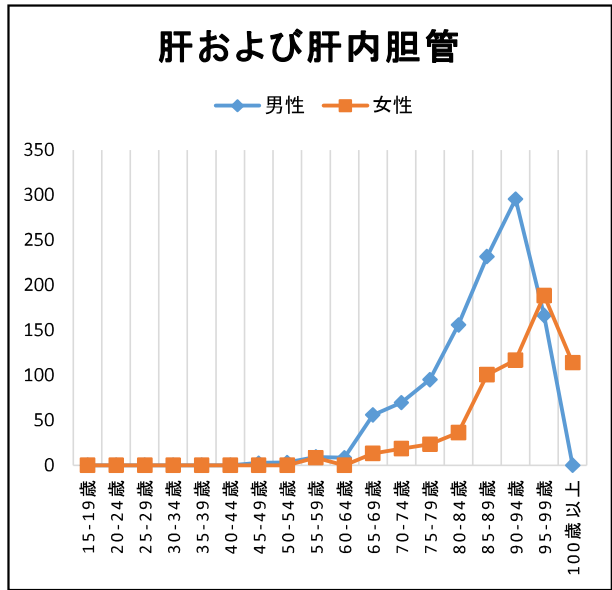
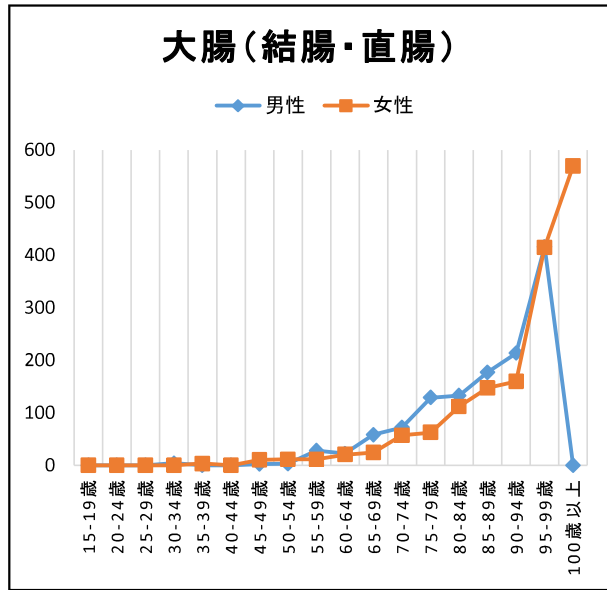
年齢階級別がん死亡割合(%) \*表10参照





部位別年齢階級別死亡率(人口10万対) \*表11-1参照







## 就労世代のがん

(1)大分県の就労世代のがん罹患数

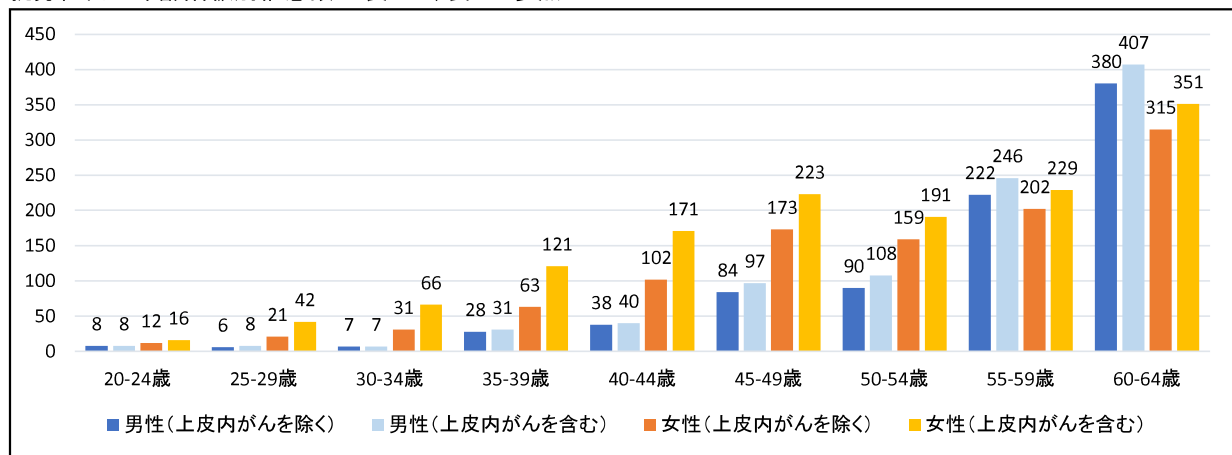
2020年の大分県のがん罹患について、就労可能年齢である20-64歳の年齢階級区分で罹患数を集計した。20-64歳のがん罹患数は男性863件、女性1,078件、総数1,941件であり、全罹患数の21.6%であった。上皮内がんを含むがん罹患数では、男性952件、女性1,410件、総数2,362件であり、全罹患数の23.7%であった。

就労世代の男性においてがん罹患が最も多い部位は大腸(結腸・直腸)で、肺、前立腺、胃、腎・尿路(膀胱除く)と続く。就労世代の女性でがん罹患が最も多い部位は乳房で、子宮、大腸(結腸・直腸)、甲状腺、肺と続く。

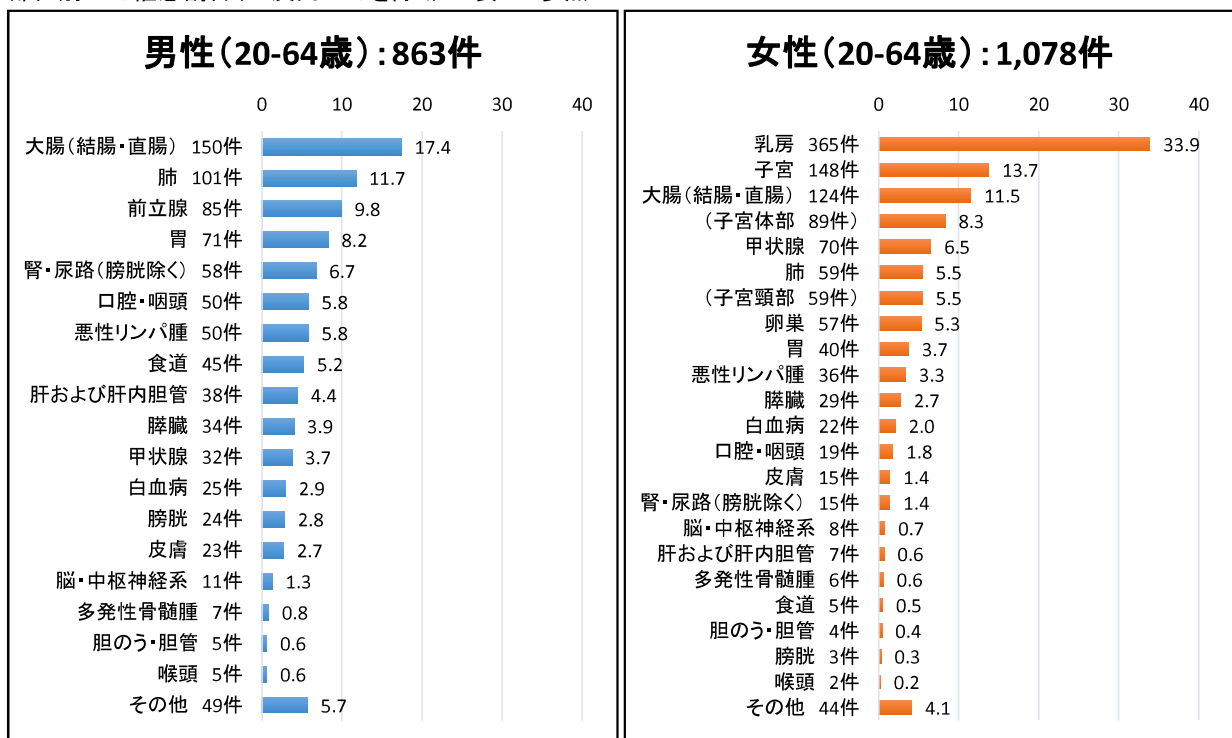
大分県と全国のがん罹患数 \*表2-A、表2-B、「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」参照

		上皮内がんを除く		上皮内がんを含む	
		全年齢	20-64歳	全年齢	20-64歳
2020年 大分県	男性	5,052	863	5,478	952
	女性	3,934	1,078	4,484	1,410
	総数	8,986	1,941	9,962	2,362
2020年 全国	男性	534,814	99,721	586,105	112,395
	女性	410,238	126,292	469,620	161,235
	総数	945,055	226,013	1,055,728	273,630

就労世代の年齢階級別罹患数 \*表2-A、表2-B参照



部位別がん罹患割合(上皮内がんを除く) \*表2-A参照



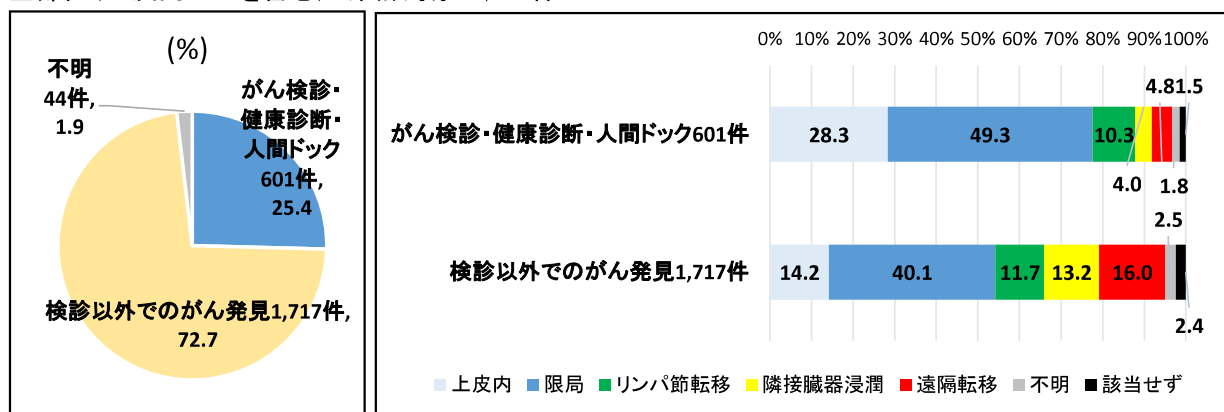
(2) 就労世代のがんの発見経緯と進展度

全国がん登録データベースシステム研究利用目的データ(匿名化情報2020年確定時)から、就労世代(20-64歳)について、がんの発見経緯別の進展度を集計した(DCO症例を除く)。

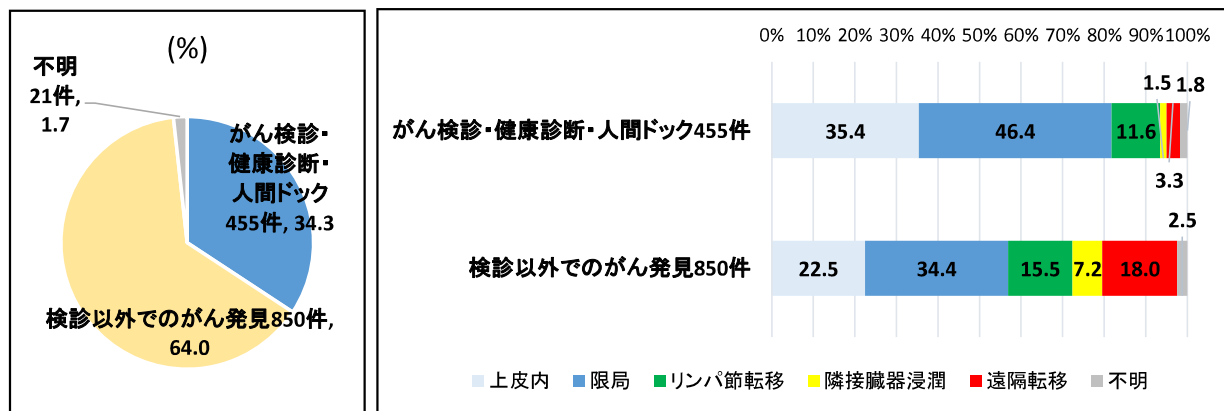
上皮内がんを含む全部位でみると、就労世代では、がん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんは25.4%、検診以外でのがん発見が72.7%であった。がん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんの進展度をみると、77.6%が上皮内+限局であり早期に発見されている。検診以外で発見されたがんの進展度は、54.3%が上皮内+限局であり、40.9%が何らかの転移の状態で見られている。市町村の対策型検診の対象5部位では、がん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんは34.3%で、そのうち上皮内+限局で発見されたがんの割合は、81.8%である。

部位別にごがん検診・健康診断・人間ドックで発見されたがんの進展度をみると、上皮内+限局で発見されたがんの割合は、胃(85.7%)、大腸(結腸・直腸、上皮内がんを含む 77.7%)、肺(上皮内がんを含む 55.0%)、乳房(上皮内がんを含む 78.5%)、子宮頸部(上皮内がんを含む96.7%)である。

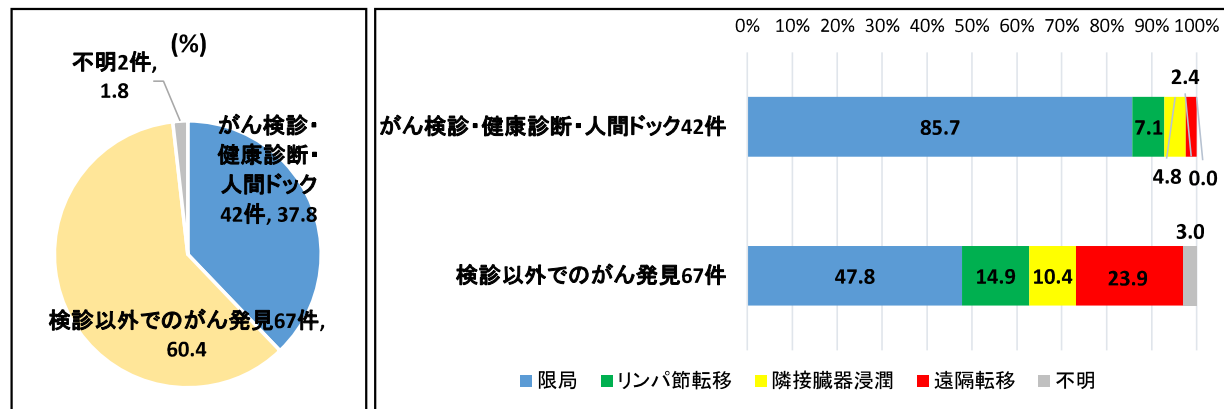
全部位(上皮内がんを含む) 集計対象:2,362件



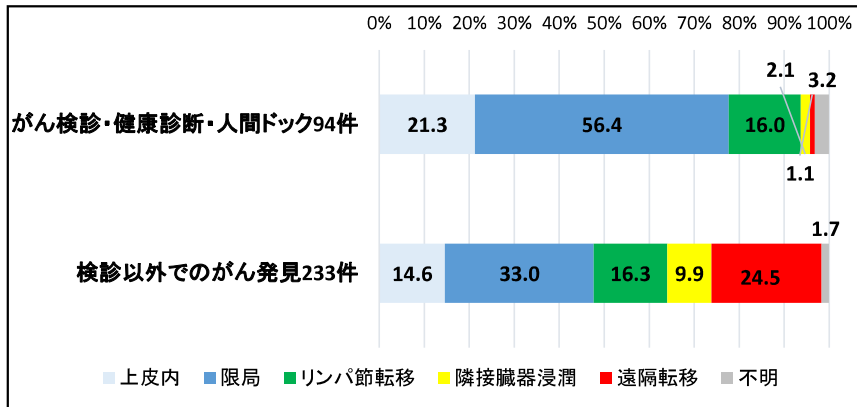
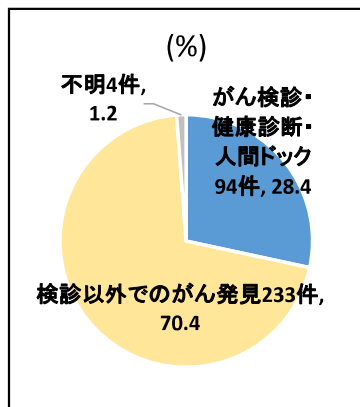
検診対象5部位のがん(胃、大腸、肺、乳房、子宮)(上皮内がんを含む):1,326件



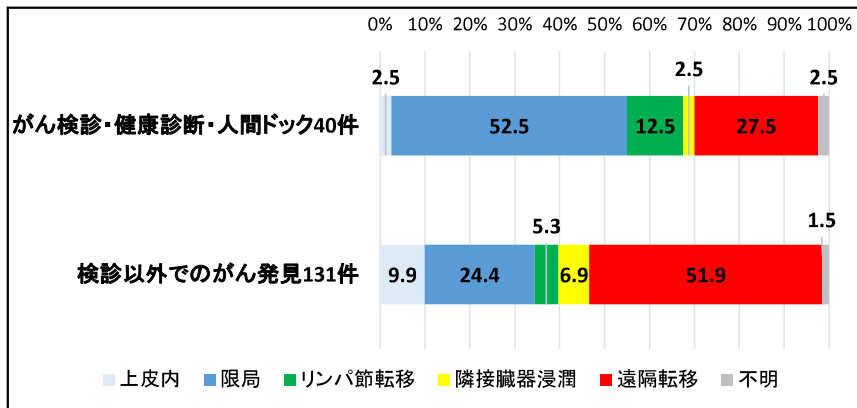
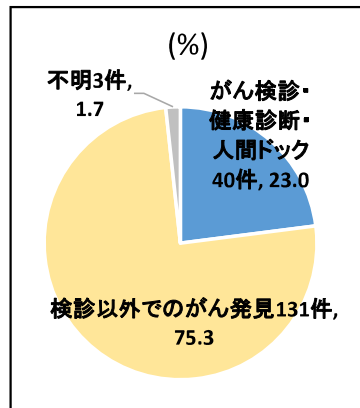
胃 集計対象:109件



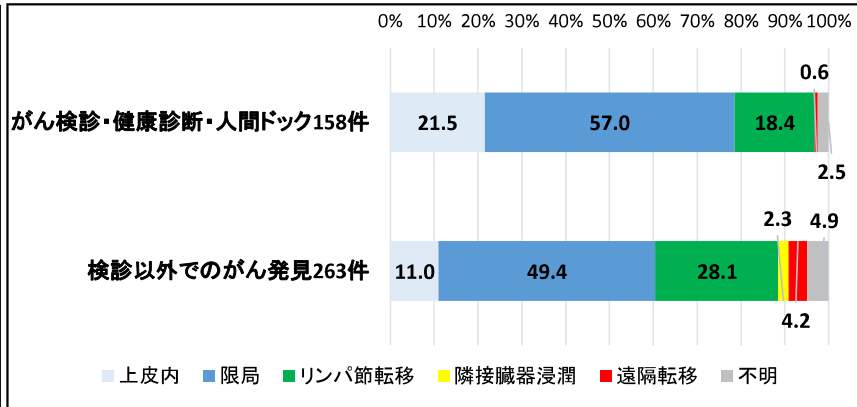
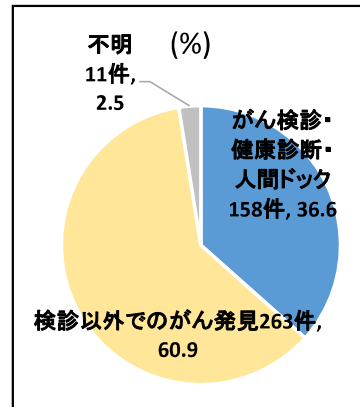
大腸(結腸・直腸、上皮内がんを含む) 集計対象:331件



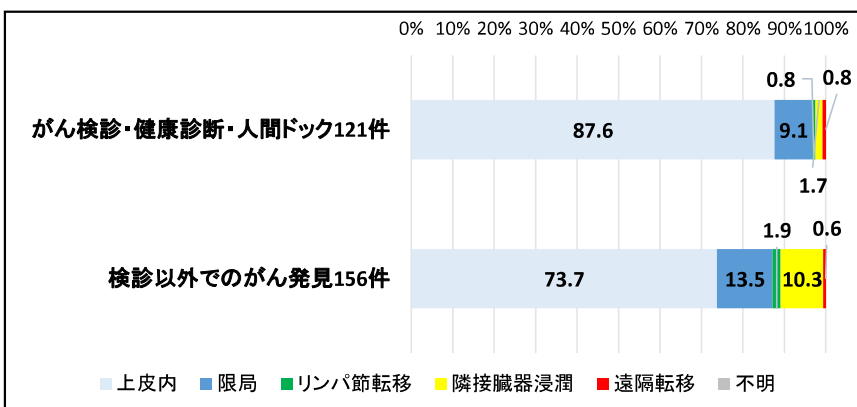
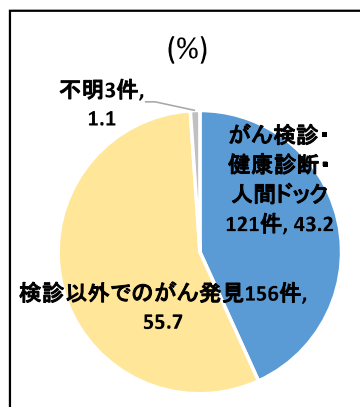
肺(上皮内がんを含む) 集計対象:174件



乳房(上皮内がんを含む) 集計対象:432件



子宮頸部(上皮内がんを含む) 集計対象:280件

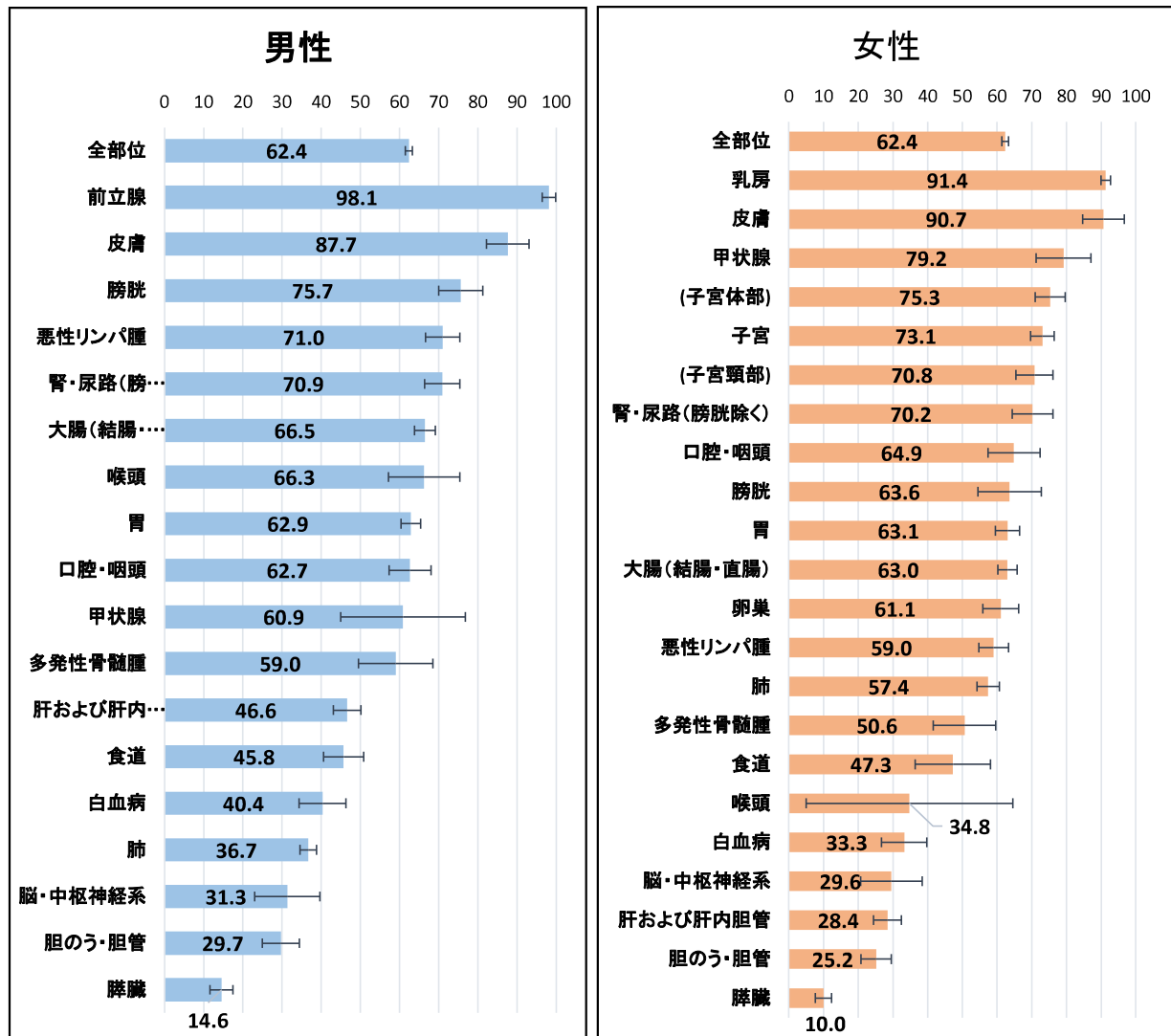


## 5年相対生存率

2015年診断症例の全部位での5年相対生存率は、男性62.4%、女性62.4%、男女計で62.4%であった。男性では、前立腺、皮膚、膀胱、悪性リンパ腫、腎・尿路(膀胱除く)の順に高く、前立腺では90%を超える。肝および肝内胆管、食道、白血病、肺、脳・中枢神経系、胆のう・胆管、膵臓では、50%を下回り、特に膵臓では、14.6%となっている。女性では、乳房、皮膚、甲状腺、子宮、腎・尿路(膀胱除く)の順に高く、乳房、皮膚では90%を超える。食道、喉頭、白血病、脳・中枢神経系、肝および肝内胆管、胆のう・胆管、膵臓では50%を下回り、特に膵臓では10.0%となっている。

また、進展度別の5年相対生存率をみると、全部位の限局では91.4%であった。主要部位でみると、胃、大腸(結腸・直腸)、乳房(女性のみ)、子宮頸部、前立腺の限局の5年相対生存率は90%を超える。

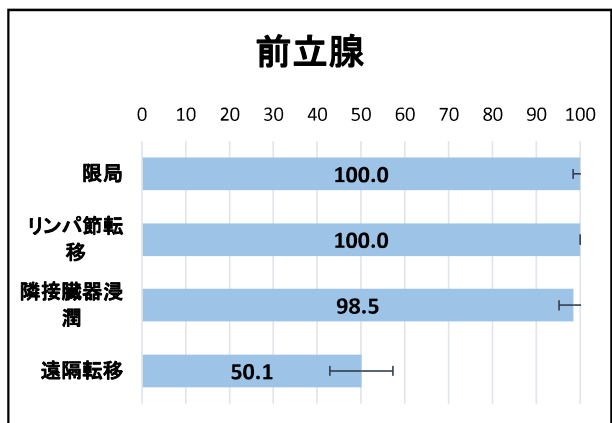
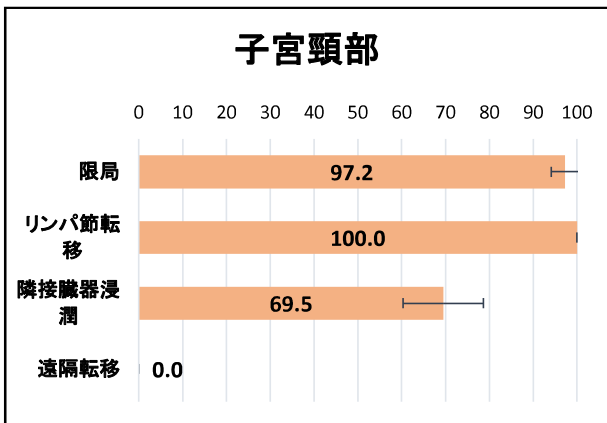
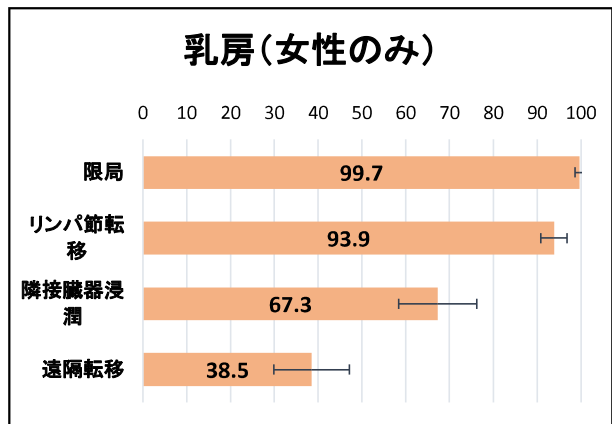
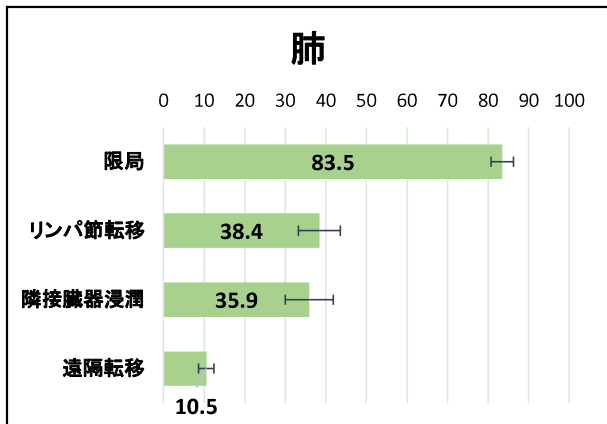
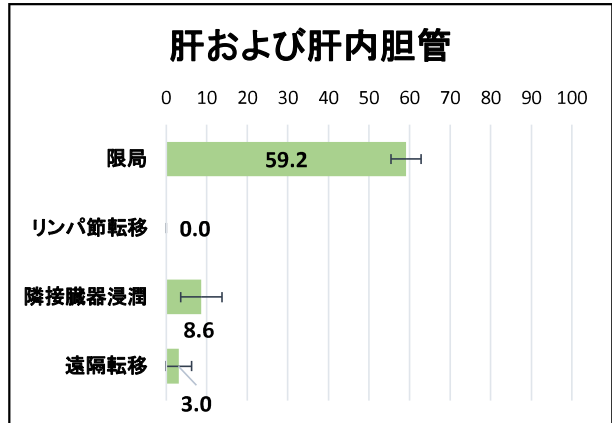
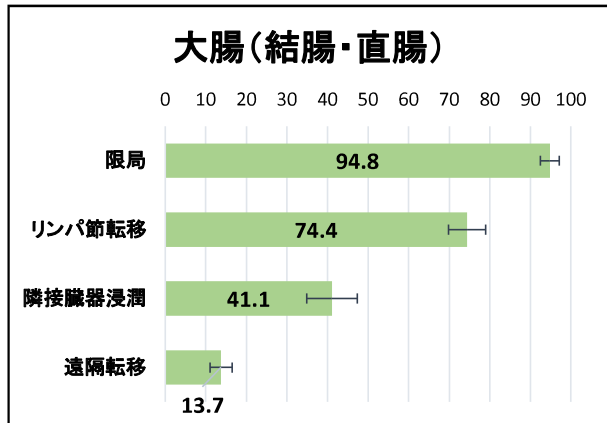
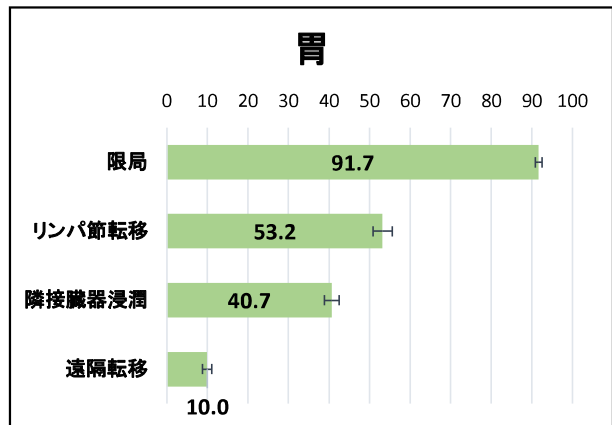
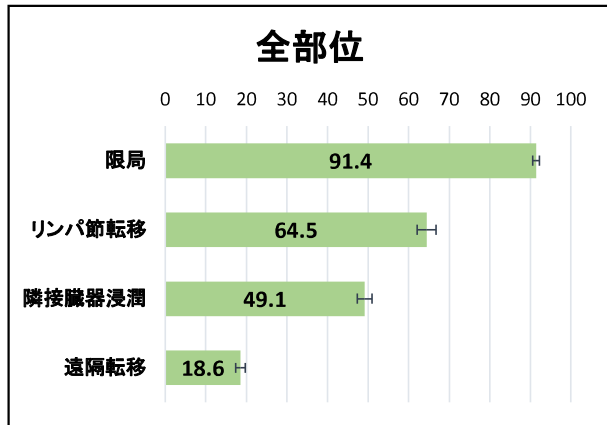
大分県2015年がん診断症例の部位別5年相対生存率 \*表12参照



◎DCO、上皮内がん、診断時年齢100歳以上、第2がん以降を除く

◎エラーバーは標準誤差を示す

大分県2015年がん診断症例主要部位の進展度別5年相対生存率 \*表13参照



◎DCO、上皮内がん、診断時年齢100歳以上、第2がん以降を除く  
 ◎エラーバーは標準誤差を示す